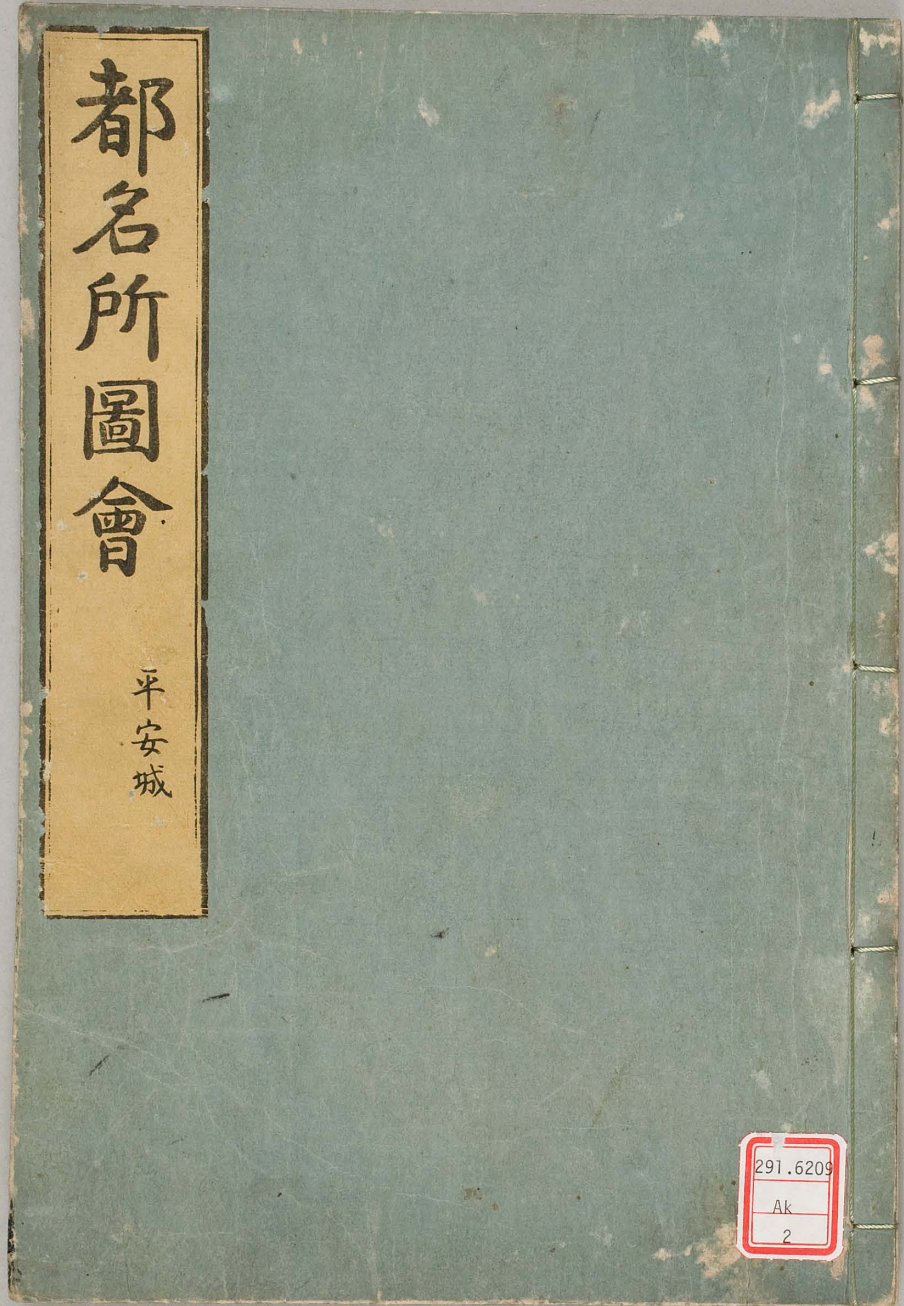


0346



291.6209  
 Ak  
 2



都名所圖會

平安城

291.6209  
Ak  
2

都名所圖會卷之二目錄

平安城尾

官者殿系

大雲院

座頭積塔

宮川 鴨川の末

六波羅蜜寺

愛宕寺

五條橋

塩竈井

太子堂

萬年寺 天満宮

橋行半郷塚

祇園御蔭所

祇園會館

粟河原夕涼亭

建仁禪寺

姿見の池

晴明社

首途八幡

本覺寺

新善光寺

竹林院

市中金山光寺

四條乃場金蓮寺

同山鉾圖

同芝居

蛭子社

阿古屋塚

十禪寺社

御影堂

塩竈上供寺

蓮光寺

鬼頭天皇

延壽寺

十住心院 深殿地蔵

手洗水圖

目疾地藏

六道珍皇寺

稻魔堂

若宮八幡

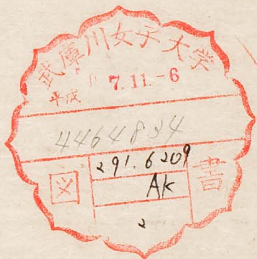
鏡の池

塩竈社

長講堂

等善寺

夕靨塚



道祖社	芥根水	成真寺	東殿	古醒井	本國寺 <small>加老清正</small>	天道社	新住吉	一音寺	諏訪社	因幡茶師	佛光寺	籬の池
稻為所	月見橋	判官塚	松明殿	興正寺	人丸社	所右刀松	荒社	壬生寺	新玉津浦社	繁昌社	神明宮	藍深川
藏王森	稻荷社	宇賀社	稻荷系礼忌	常樂寺	醒井	石上宮	化糞水	同狂玄圖	菅大長社	朝日宮	大系社	花園稻荷社
寬井石	不動堂	菰内智家	金光寺	東本願寺	西本願寺	久養寺	板垣子	蛭子森	五条天神宮	神明宮	白天社	俊成郷社

春日森	古井社	三銘松	六孫王社	福大明社森
古津旅	清盛旧地	松子坊松	誕生水	人丸塚
朱守長老	住吉社	死生門旧跡	滿仲公誕生地	鴻原傾城町
粟津社	東寺	大通寺	欽喜森	

十月廿日(廿二日) 誓(せい)言(げん)の(ま)つひ  
 とくしよ(徳)を(ま)つひ(に)極(ごく)乃(なり)  
 官(くわん)大(だい)殿(てん)不(ふ)訪(ぼう)之(の)群(ぐん)  
 集(あ)り(て)祇(ぎ)園(えん)鴨(鴨)川(がわ)の  
 俗(ぞく)女(にょ)も(も)ち(ち)は(は)茶(ち)で  
 ち(ち)り(り)ひ(ひ)と(と)し(し)し(し)又(また)  
 其(その)夜(よ)より(より)極(ごく)言(げん)を(を)  
 言(い)ふ(ふ)は(は)神(かみ)へ(へ)と(と)の  
 ろ(ろ)の(の)あ(あ)ら(あら)や

酒(さけ)の  
 名(な)を(を)傳(つた)へ  
 具(ぐ)角(かく)





紙園所<sup>カミヅノ</sup>所<sup>ノ</sup>高条系極<sup>タカサカノ</sup>の辻<sup>ツギ</sup>あり毎<sup>ツネニ</sup>六月七日紙園會<sup>カミヅノノ</sup>神樂<sup>カミヅノ</sup>之基

此所<sup>ココ</sup>小社<sup>コノヤシロ</sup>幸<sup>ユキ</sup>しゆ日<sup>ヒ</sup>十四日小祭禮<sup>コノマツルヒノ</sup>ありて本殿<sup>ホンノヤシロ</sup>還幸<sup>ウケツグ</sup>しゆ入<sup>イリ</sup>兩日<sup>ニヒ</sup>れぬ針<sup>ハネ</sup>と

少將<sup>シヤウシャウ</sup>井天<sup>イノヘ</sup>尊<sup>ノミ</sup>初<sup>ハジメ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>二坐<sup>ニイマス</sup>大政所<sup>オホノサキ</sup>と號<sup>ナヅケ</sup>してむらう鳥丸<sup>トリノマル</sup>通<sup>トヲス</sup>五条坊<sup>イツノエノヤシロ</sup>門<sup>ノ</sup>の

南<sup>ミナミ</sup>小社<sup>コノヤシロ</sup>後所<sup>ノチノヤシロ</sup>今<sup>イマ</sup>大政所<sup>オホノサキ</sup>少<sup>シヤウ</sup>井<sup>イノヘ</sup>の二坐<sup>ニイマス</sup>鳥丸<sup>トリノマル</sup>一條<sup>イツノエ</sup>の山<sup>ノ</sup>あり

春日<sup>カスガヒ</sup>明<sup>アカ</sup>神<sup>カミ</sup>官<sup>ツカサキ</sup>者<sup>ノ</sup>殿<sup>ノ</sup>新<sup>ニヤシ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>初<sup>ハジメ</sup>世<sup>ヨ</sup>土<sup>ツチ</sup>佐<sup>サカ</sup>正<sup>マサ</sup>尊<sup>ノミ</sup>の靈<sup>リウ</sup>ありて今<sup>イマ</sup>本<sup>ホン</sup>社<sup>ヤシロ</sup>之<sup>ノ</sup>基<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>

悪<sup>アク</sup>王子<sup>ノミ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>神<sup>カミ</sup>族<sup>ウヂ</sup>小<sup>コ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>ありて狐<sup>キツネ</sup>園<sup>ノ</sup>會<sup>ノ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>豊<sup>トヨ</sup>臨<sup>リン</sup>幸<sup>ユキ</sup>の時<sup>トキ</sup>鳥丸<sup>トリノマル</sup>通<sup>トヲス</sup>

錦<sup>ニシキ</sup>綾<sup>アヤ</sup>山<sup>ヤマ</sup>金<sup>カネ</sup>蓮<sup>レン</sup>寺<sup>ジ</sup>公<sup>キミ</sup>名<sup>ナ</sup>極<sup>ツク</sup>通<sup>トヲス</sup>四<sup>シ</sup>条<sup>ジョウ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>ありて四<sup>シ</sup>条<sup>ジョウ</sup>道<sup>ミチ</sup>場<sup>ノ</sup>時<sup>トキ</sup>宗<sup>ムネ</sup>ありて本<sup>ホン</sup>社<sup>ヤシロ</sup>阿<sup>ア</sup>弥<sup>ミ</sup>陀<sup>タ</sup>佛<sup>ブツ</sup>

崩<sup>クズレ</sup>基<sup>ノ</sup>を澤<sup>サハ</sup>阿<sup>ア</sup>上<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>初<sup>ハジメ</sup>意<sup>イ</sup>地<sup>チ</sup>藏<sup>ゾウ</sup>運<sup>ウン</sup>慶<sup>ケイ</sup>の山<sup>ノ</sup>初<sup>ハジメ</sup>能<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>當<sup>トキ</sup>寺<sup>ジ</sup>の鎮<sup>チン</sup>守<sup>シ</sup>あり

杜<sup>ツ</sup>鶴<sup>ツル</sup>松<sup>マツ</sup>方<sup>カタ</sup>丈<sup>マタ</sup>の東<sup>ヒガシ</sup>あり杜<sup>ツ</sup>鶴<sup>ツル</sup>浴<sup>ユク</sup>場<sup>ノ</sup>の墓<sup>ハカ</sup>所<sup>ノ</sup>あり

十<sup>ジュウ</sup>住<sup>ジュウ</sup>心<sup>シン</sup>院<sup>イン</sup>の四<sup>シ</sup>条<sup>ジョウ</sup>道<sup>ミチ</sup>場<sup>ノ</sup>の南<sup>ミナミ</sup>口<sup>ノ</sup>あり真<sup>マコト</sup>言<sup>コト</sup>宗<sup>ムネ</sup>ありて本<sup>ホン</sup>社<sup>ヤシロ</sup>地<sup>チ</sup>藏<sup>ゾウ</sup>尊<sup>ノミ</sup>の法<sup>ホウ</sup>大<sup>ダイ</sup>師<sup>シ</sup>

の化<sup>ケ</sup>りて深<sup>フカ</sup>殿<sup>ノ</sup>自<sup>ミ</sup>后<sup>ノ</sup>常<sup>トコ</sup>小<sup>コ</sup>尊<sup>ノミ</sup>信<sup>シン</sup>ありて當<sup>トキ</sup>院<sup>イン</sup>を建<sup>タテ</sup>立<sup>テ</sup>しゆ故<sup>コト</sup>小<sup>コ</sup>深<sup>フカ</sup>殿<sup>ノ</sup>地<sup>チ</sup>藏<sup>ゾウ</sup>

社<sup>ヤシロ</sup>類<sup>ルイ</sup>ハ深<sup>フカ</sup>殿<sup>ノ</sup>と書<sup>カ</sup>けて僧<sup>ソウ</sup>正<sup>マサ</sup>賢<sup>ケン</sup>如<sup>ニョ</sup>の宅<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>

大雲院



醍醐山太雲院と京極四条南あり浄土宗あり智恩院も屬此奉尊阿  
弥陀佛(惠心僧都れりゆ(南基)貞安上人命りけ(安土論)の耐津家(松)  
文ありて信長公厚く帰依(ゆい)られ(八幡)西寺(西寺)建立して貞安(ま)  
信職(まこと)の時(とき)も信長公(の)浄(じやう)父(ちち)子(こ)明(あきら)智(ち)之(の)秀(ひで)を(を)為(な)す(に)生(なま)害(がい)し(に)ゆ(に)故(ゆ)貞安上人(まこと)體(たい)  
多(おほ)く系(けい)初(はつ)み(ま)登(のぼ)り(二)冬(ふゆ)馬(うま)九(こ)れ(を)爲(な)す(に)居(ゐ)室(むろ)が(が)ま(ま)さ(を)く(を)く(を)浄(じやう)善(ぜん)投(な)り(吊(た)其(そ)後(ご)  
秀(ひで)吉(きち)公(こう)れ(を)命(いのち)す(に)めて(て)夫(お)の(の)末(すえ)織(を)田(た)信(のぶ)忠(ただ)卿(きやう)進(しん)福(ふく)の(の)名(な)を(を)當(あた)院(いん)故(こ)草(くさ)創(さう)り(ゆ)ゆ(に)  
郷(きやう)の(の)法(はふ)多(おほ)く大(おほ)雲(うん)院(いん)殿(でん)三(さん)品(ひん)羽(は)林(りん)仙(せん)巖(いん)居(ぐ)士(し)と(と)稱(なづ)け(る) 當院の號をいかにしり信長公の信忠  
公田向橋は所あり  
信長公(の)安(やす)土(つち)浄(じやう)土(ど)城(じやう)の(の)尉(じ)貞安(まこと)上(じやう)人(にん)七(しち)種(しゆ)の(の)奇(き)物(ぶつ)袋(ふくろ)楊(やう)今(いま)當(あた)院(いん)の(の)行(ぎやう)資(し)之(の)具(ぐ)  
中(ちゆう)不(ふ)法(はふ)然(ぜん)上(じやう)の(の)一(いち)牧(まか)起(き)清(せい)文(ぶん)あり(て)是(こ)れ(を)一(いつ)休(きゆう)和(わ)尚(じやう)け(る)等(らう)多(おほ)く貞(まこと)繪(え)淺(せん)あり(て)圓(えん)一(いつ)達(たつ)人(にん)師(し)  
の(の)後(ご)向(むか)け(る)画(え)あり(て)其(そ)の(の)讚(さん)小(せう)曰(いは)す  
達(たつ)人(にん)悟(ご)り(て)一(いつ)心(しん)を(を)の(の)胸(むね)に(に)の(の)と  
九(こ)年(ねん)か(か)と(と)せ(せ)ん(ん)す(す)を(を)む(む)く(く)る(る)滅(めつ)の(の)師(し)承(じやう)院(いん)の(の)一(いち)聲(せい)  
佛(ぶつ)淨(じやう)所(じよ)さ(さ)ぬ

達(たつ)人(にん)悟(ご)り(て)一(いつ)心(しん)を(を)の(の)胸(むね)に(に)の(の)と  
九(こ)年(ねん)か(か)と(と)せ(せ)ん(ん)す(す)を(を)む(む)く(く)る(る)滅(めつ)の(の)師(し)承(じやう)院(いん)の(の)一(いち)聲(せい)

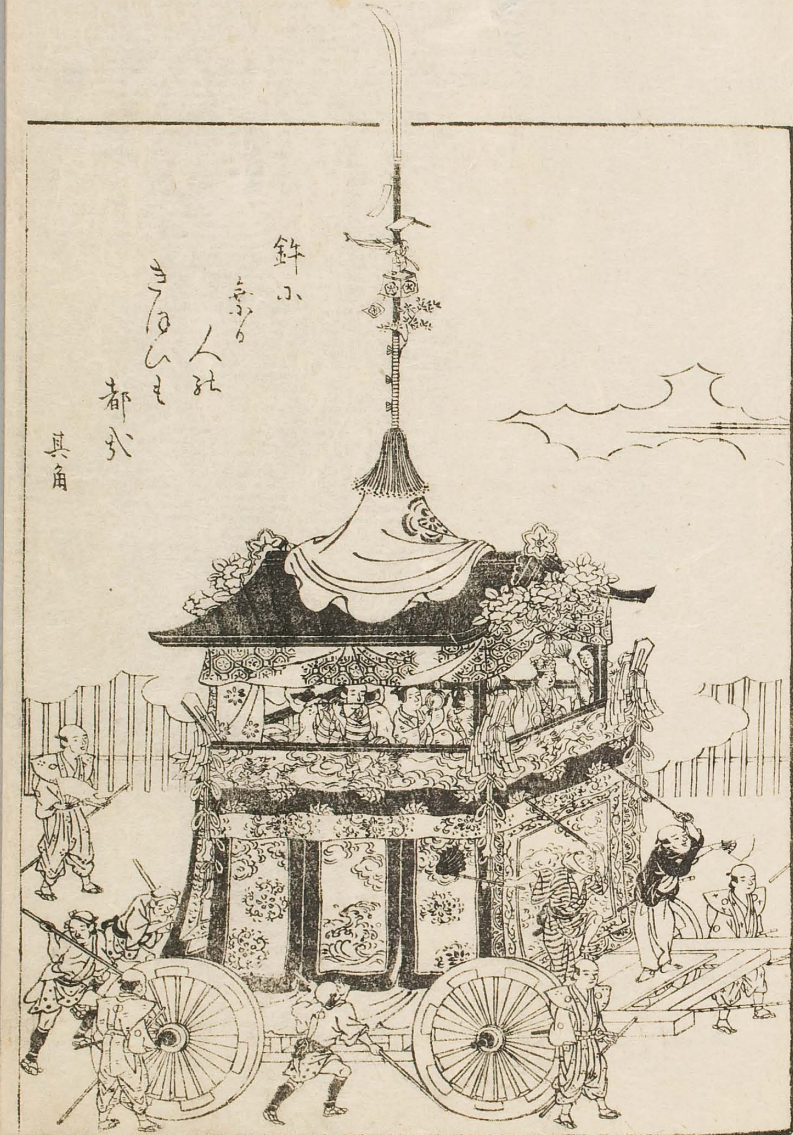
佛(ぶつ)淨(じやう)所(じよ)さ(さ)ぬ

一(いち)休(きゆう)判(はん)

三(さん)五(ご)

祇園會の系(けい)式(しき)に村(むら)毎(まい)五(ご)月(げつ)朔(しやく)具(ぐ)致(ぢ)齊(せい)より四(よ)系(けい)淨(じやう)後(ご)町(ちやう)小(せう)林(りん)と(と)なる(なる)是(こ)も(も)一(いち)乃(の)藥(やく)  
後(ご)の(の)旧(く)地(ぢ)あり(て)同(どう)北(きた)日(にち)の(の)吉(きち)符(ふ)今(いま)り(る)鉾(こ)の(の)町(ちやう)々(々)小(せう)難(なん)子(し)初(はつ)あり(て)神(かみ)興(きやう)信(のぶ)同(どう)晦(まひ)日(にち)あり(て)  
御(ご)途(と)桃(もも)灯(とう)煉(れん)物(ぶつ)の(の)行(ぎやう)旅(りよ)難(なん)々(々)と(と)洛(らく)東(とう)の(の)儀(ぎ)一(いつ)月(げつ)朔(しやく)日(にち)鉾(こ)の(の)足(あし)祇園系(ぎやんけい)と(と)て  
の(の)り(る)物(ぶつ)あり(て)一(いち)騎(き)馬(ば)少(せう)く(く)具(ぐ)行(ぎやう)烈(れつ)た(た)羅(ら)と(と)し(し)て(て)高(たか)貴(き)の(の)住(す)ま(ま)ふ(ふ)他(た)り(り)五(ご)日(にち)を(を)淨(じやう)の(の)  
引(ひ)初(はつ)日(にち)の(の)早(はや)太(た)公(こう)用(よう)堂(どう)小(せう)井(い)の(の)と(と)鉾(こ)行(ぎやう)列(れつ)前(ぜん)後(ご)の(の)園(えん)取(と)り(る)此(こ)日(にち)の(の)夕(ゆふ)く(く)み(ま)ま  
音(ね)宮(みや)銘(めい)と(と)し(し)鉾(こ)と(と)系(けい)日(にち)の(の)ぬ(ぬ)く(く)ゆ(ゆ)る(る)五(ご)桃(もも)灯(とう)と(と)く(く)連(れん)て(て)夜(よ)多(おほ)く難(なん)あり(る)と(と)  
貴(き)祕(ひ)群(ぐん)集(しゆ)い(い)り(る)方(かた)方(かた)七(しち)日(にち)祇園會(ぎやんけい)と(と)て(て)外(とち)の(の)計(けい)あり(て)鉾(こ)烈(れつ)と(と)し(し)四(よ)系(けい)通(つう)り(る)  
系(けい)極(ごく)と(と)南(なん)へ(へ)松(まつ)系(けい)西(せい)へ(へ)引(ひ)流(りゅう)と(と)し(し)日(にち)神(かみ)興(きやう)の(の)系(けい)れ(れ)末(すえ)の(の)舟(ふね)あり(て)感(かん)神(かみ)院(いん)より(より)御(ご)  
旅(りよ)所(じよ)へ(へ)神(かみ)幸(きやう)あり(て)又(また)八(はち)日(にち)より(より)十四(じゅうし)日(にち)れ(れ)鉾(こ)の(の)當(あた)り(り)て(て)十二(じふに)日(にち)れ(れ)龜(かめ)園(えん)取(と)り(る)十四(じゅうし)日(にち)  
れ(れ)山(さん)鉾(こ)二(に)條(じやう)通(つう)と(と)東(とう)系(けい)極(ごく)と(と)南(なん)へ(へ)四(よ)系(けい)西(せい)引(ひ)流(りゅう)と(と)神(かみ)興(きやう)の(の)系(けい)れ(れ)末(すえ)に(に)淨(じやう)後(ご)所(じよ)より  
四(よ)系(けい)西(せい)へ(へ)東(とう)洞(どう)院(いん)より(より)神(かみ)興(きやう)南(なん)へ(へ)引(ひ)流(りゅう)と(と)て(て)後(ご)の(の)と(と)二(に)條(じやう)西(せい)へ(へ)旅(りよ)社(しゃ)と(と)同(どう)烈(れつ)し(し)  
三(さん)系(けい)東(とう)へ(へ)還(かへ)幸(きやう)し(し)あ(あ)り(り)同(どう)十八(じゅうはち)日(にち)小(せう)神(かみ)興(きやう)洗(せん)と(と)晦(まひ)日(にち)等(らう)祇園鴨(ぎやんか)川(がわ)の(の)わ(わ)り(り)ハ  
竹(たけ)葦(あし)れ(れ)如(ごと)く(く)群(ぐん)と(と)あ(あ)り(り) 鉾の圓ハ二三奉ると全國例系古實の次第ハ祇園會御紀より  
くりたる入りと略す





會之園之祇



六針の糸式（いし）一八一八  
 名も異（な）みしてふゆの定  
 深（ふか）六合人の（む）登（のぼ）深（ふか）深（ふか）  
 の跳（は）深（ふか）家（や）を（を）に（に）車（くるま）風（かぜ）流（なが）  
 れ造（つく）り（を）ふ八（は）撥（は）舞（ま）身（み）か（か）と  
 へ（へ）あ（あ）り（を）ふ（を）庄（ぢやう）鹿（か）機（き）あり  
 今（いま）れ（を）漢（わん）に（に）錦（きん）鋪（ぽ）と（と）ま（ま）ふ  
 七（しち）宝（ほう）と（と）湯（とう）を（を）行（ゆ）む（を）莊（ぢやう）鹿（か）機（き）あり  
 して（して）三（さん）下（げ）身（み）一（いつ）の（の）あ（あ）ね（ね）と（と）



家米  
 かたにさく  
 ふるれ尾の  
 長た日ぬ  
 神の園とせ

鳥家





手洗あり  
 烏丸通  
 小浜れ小  
 ありむ  
 大政所町  
 祇園神樂乃  
 所務所あり  
 糸清の輩  
 ろめて手洗  
 ありむ  
 け例より

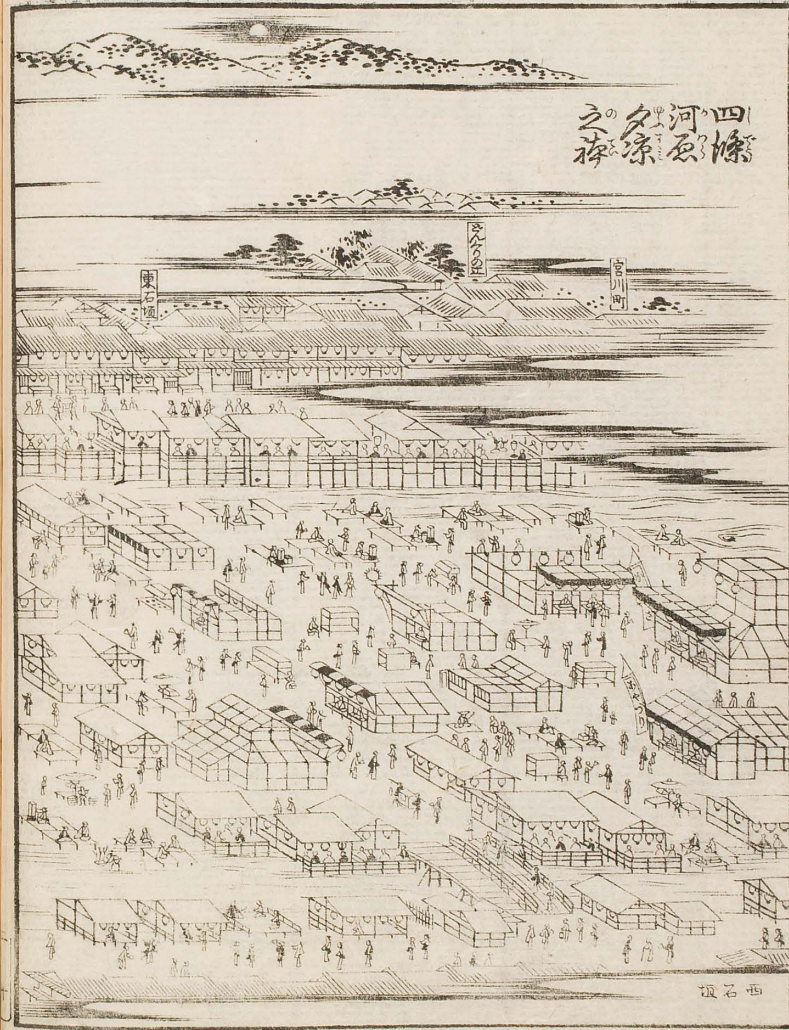
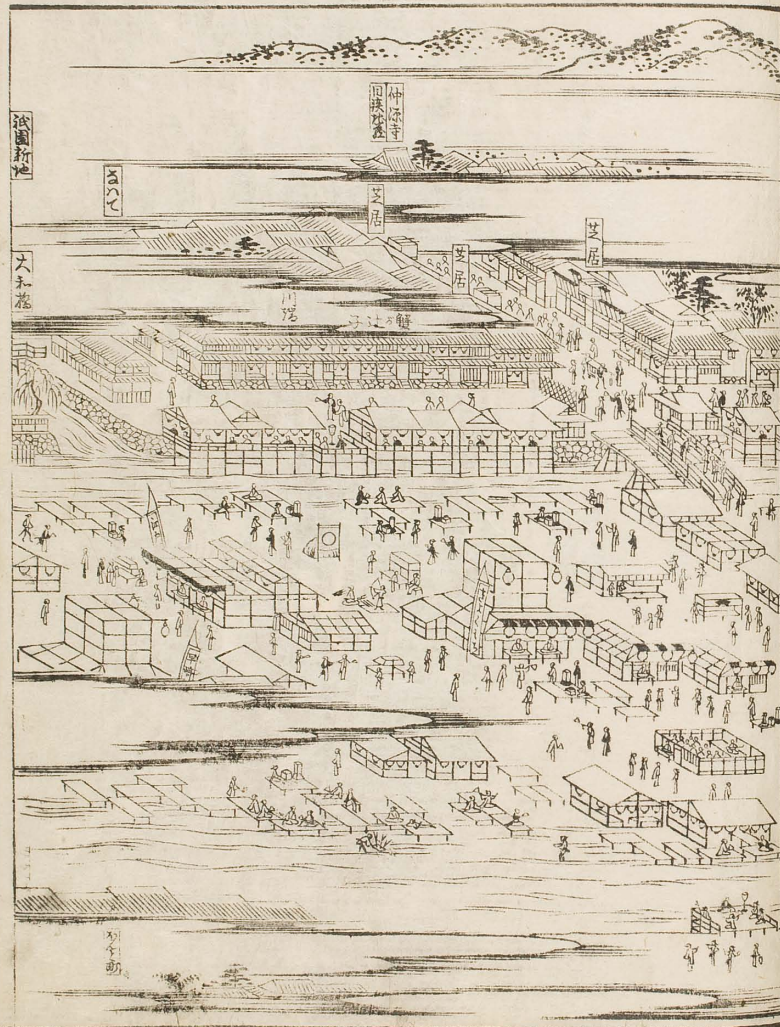


今も六月  
 七日より  
 十四日まで  
 井坂  
 水所と  
 凄冷なる  
 清泉にて  
 比るべし  
 水取服と  
 疫取  
 のごころ

坐頭積塔より人王五十八代孝天皇の娘宮雨夜内親王清眼盲ゆりて  
より洛中の女に盲者故先して清伽世と勢多の賤き女宮とたすし清前  
小任公ともいふ清宗といひ風儀よりいなり男子の盲人も宮女揚々  
存及と称し檢校勾當の宮女何とらむは内親王より遺風あり  
毎来二月十六日は娘宮の清祥忌なりは左頭集まらぬ形にて尊親  
拜し東北河原ふとる左積を報恩とまらぬ積塔より又六月廿四日も  
集會とまらぬは左座頭の納涼とて形も別し則し清宗ありとくや  
今高倉通五條坊門の山集會所ありて二箇の積塔とらぬ會しとく  
琵琶坂彈して平家城よりとらぬは此例よりて此法甚な振動なり  
又雨夜内親王も是れゆりて後の衝劬のまじりて今も不便  
相なりゆりて洛陽のた女牛小長夜とて告りせゆ今も京をのまらぬ  
又ゆりてあゆみとてゆりて法おて通ふゆりた女牛の目とてゆり  
ありとくや

雨夜内親王の時兼王代の  
系圖よみぬき後考あり

四條河原夕涼に六月七日より始り十八日小終り東西の音樓より川邊に  
味波備け燈の星の如く河原まはれ机をたらし流るる真波僅に濃此系乃  
帽より河風小扇蹴として過すは夏少年れ月のゆきと押さるる扇  
のまらぬとみゆりてわねとみゆりてきとてゆりてゆりてゆりて  
れ今夜盛といろくしてま容も及らる粧は圓鹿射ははやらは重と南へ外  
北へゆりて漁糸の店小体とてゆりてゆりて香煎と鴨川の流れ  
故ゆりて京のゆりて輕波賞ゆりて吐八音の郭象も勝とて懸河は水波  
は如物まはらぬ合圓と押さるる猿狂とたのすし曲馬曲杭懸繩は繩  
渡は鞆鞆れ付して噴噴れ舞ゆりてゆりて店に籠水漏るとゆりて暑波避  
硝子れ百珊とて額して涼風とてゆりて和漢れや鳥深山は猛獸とてゆりて  
観くは物群とて川邊を遊真するゆりて折枝の例ゆりて小蠅をゆりて  
牛頭天皇の藤氏將本を教ゆりてゆりて遺法とてゆりて  
中ゆりてあゆみとてゆりて西季とてゆりて相けとて造化とてゆりて相けとてゆりて  
出衆の金糸ぬきとてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて



四糸川よこすがわ系けいとくとして夕月ゆげ夜よのありあり  
有明ありあけの夜よ頃ころすく川中かわなかつより流ながれ  
層かさね々かさね夜よをぐ酒さけのこぼれをいれぬ  
わの帯おびのむすむいりありくたし羽織はori  
かき着きるして法師ほうし老人らじんのふまに桶かじ  
らぢられずみみすすたためてくさむの  
あつこころの都みやこのきききりん

川かわ風かぜや流ながれを看みる夕ゆふ夕ゆふをいみ

芝居しばいを四糸よこす鴨川かみがわの系けいより永祿えいりく年中なかつ江別えべつに浪人なみのり各おの各おの屋やを  
とつとの出雲いづみのお圃くさとつと風流ふうりゅう女むすめとくくしふと舞妓まいぎと名なの  
けく男女おんな立た合あの狂くるを依よ仕し組ぐみ小舟こぶねの本林ほんりん祇園ぎげんの南みなみ林りんありし各おの各おの系けい  
河原かわら橋はしれぬを興行きやうぎやうしつるよ秀ひで吉よしか伏見ふし見城しろより上かみ路みちしつる何なに見み  
物群ものぐらみ集あつまま坊ぼくふふ乃なし故ゆ小四糸こよこすの河原かわらより其その後のち中なか絶たりし所ところ小  
兼應かねえい二年にふたの村むらふ又また去さるつと四糸よこす河原かわら系けい中なか流ながれを再興さいきやうし又また繩なは手て  
四糸よこす小舟こぶねを逐おふ寛文くわんぶん年中なかつ今いまれ地ちふりつて常とこ芝居しばいとあり  
仲源ちゆうげん寺てらの四糸よこす大和たいわの異いの用もちふあり藤ふじ土つち宗むねよりて智恵ちゑ院いんに属ぞくして尊そん

地藏ぢぢやう菩薩ぼさつの土中つちなかつ出現しゆげんの尊像そんざうより一ひと流ながれは定じやう胡こ世せの人ひと目め疾はや也や藏ざうと稱なづけ  
病やまひ平ひら愈よけ祈禱いのちとてい靈驗れいげんあり實じつ雨あめ止と地ぢ藏ざう之の住す來きたれ人ひと驟あ雨あめの時ときに堂だうふ  
宿やどりしと脇わき士し小こ惠ゑん僧そう都みやこれ住すりし阿彌陀佛あみだぶつの南みなみ方かたに安やすき去さる日ひ  
の他ほかれ千手せんじゆ観くわん音おんの北きたの方かたふも茶ちや師し依より方かたふ安やすき弘こう法ぽう大だい所ところ住すりしと  
宮川みやがわより鴨川かみがわ四糸よこすより南みなみに別號べつごうありむりけは名なを禹王うきやうに廟みやうといふ也なり

後世人ごせじん家け建た績せきて町まちの名なとあり

東山とうざん建た仁に禪ぜん寺てら大和たいわ大和たいわ四糸よこすの南みなみあり  
門かど前まへ通とほ四糸よこすより南みなみに建た仁に寺てらとあり中なかれ門かど  
北きたより竹たけ園えんとて坪ひら代しろより建た仁に寺てらとあり

五ご六ろくは身み二に位ゐより同どう基きの千せん光こう國くに師し兼かね上じやう僧そう正せい誹ひの榮さか西せいといふ存ぞんの備び中なか  
國くに吉きち備び津つの人ひとより賀が陽やう氏し之の薩さつ列れつに刺さし負おん政せいの曾そ孫そんとて建た保ほ三さん年ねん  
七月しちがつ五日ごにち寂じやくに七十五ご歳さい土つち御ご門かど院いんに勅ちやく預よりて征せい夷い將しやう軍ぐん源げん頼らい家け御ご敷しきに  
寄よ附つし由よし建た仁に二年にふた伽藍がらんを造ぞう宋そうに勅ちやく預よりて去さる年ねん号ごう返へん  
以もて寺てら號ごうとて佛ぶつ殿でんれ本ほん尊そんの釋しやく迦か佛ぶつ脇わき士しの迦か葉えつ阿あ難なんあり同どう山さん塔たつを  
興きやう禪ぜん護ご國くに院いんと號ごうして東とう江かう丘かみより榮さか西せい國くに師しに廟みやう塔たつあり又また國くに師し宗そん廟みやうと



愛宕寺



歸朝の時携りていへ蓋提樹の當院あり今銀葉とて河原院持の佛殿の小  
 二つの鐘堂あり東に大鐘あり是融大倉六條の東小殿舎致建のし後佛  
 殿とて河原院と号は所あり鐘之荒廢の後鴨川七条の南に深淵  
 小沈む榮西園師是心窺知りて官吏訴を求て當寺に掲げ鐘を添致  
 引よる耐更不動の徳々五園師れりいとして力者大勢是辰辰有してやとく  
 師れ身も長首座と呼んで引立てと教り力者大勢是辰辰有してやとく  
 と當寺小の門と今重き物取引は多分呼んで連送とらんは所謂鴨川七条の南七町  
 又は鐘毎夜子れ時より救九聲擗之晨後み十八聲合て百八擗之昔に陀羅  
 尼經誦誦して撞く心此鐘は多辰祈て建仁寺に陀羅尼の池法水池と  
 號し中門と冬立門と呼ぶ平家社一門門脇教成金銅 禪居房の摩和支天て安  
 至及嘉曆二年唐土より將未也靈像之應驗新りて 妙徳石方丈の 焼香橋浴堂  
 の石橋くしんしん 樂神廟を園師れ觀法して當寺に鎮守之徳中ふ吉徳津之の多三祀は  
 安國寺塔鐵田有樂塔 鐵田有樂塔正徳院あり則有水谷翁



六波羅蜜寺



六道  
彌皇寺



蛭子社こまごの建仁寺けんにんじ門前もんぜんありあり所ところ蛭子命こまごのみこと宗西國師そうせいこくし勅遣ちくせんしむ人ひとなり

建仁寺境内けんにんじの境内の巻池まきいけ

等覺じやうかく山念佛寺さんねんぶつじ上かみ波羅密寺はらみつじ西にしあり

真言宗しんげんしゆよりして開基かいき弘法大師こうぼうだいし中興ちゆうきやうと千鈔せんしやう内供ないく之本尊ほんそん觀世音くわんぜいおん菩薩ぼさつの他

あり石いしの脇わき土つち毘沙門びしゃもん地藏尊ぢざうそん千鈔せんしやう内供ないく自他じたの像ざうを安やすんじけん鑑鏡氏

相列さうりやうの刺さし申まを納言なごん頼顯らいけん卿けいの子こ幼名おんなな坂さか千鈔せんしやう丸まるらふ成長せいぢやうして叡山えいざん運照うんしやう

因供いんくの室むろ小こ入いて出家しゆげ顯密けんみつの願ねん字あざなありて一世いっせの間常まはつね小こ六む字あざな佛ぶつ號ごう汝に

終はつとる本ほん止とます色いろ故ゆゑ小こ念佛ねんぶつ上人じゆんじんと字あざな又また堂内だうない地藏尊ぢざうそん安やすんじけん鑑鏡氏

係けいと伏ふせ地藏ぢざうと稱しょうして毎まい年ねん正月しんげつ二日にち經きやうと讀よみて法ほふ人にん火か仕しの札ふだと申まをす

と天あま狗いぬ宴うゑんと稱しょうし車くるま寄よ松まつは松まつ上かみ車くるまを寄よす

普陀洛山ぶつたらくざん六波羅密寺ろくはらみつじ六道ろくだうの西にしあり真言宗しんげんしゆよりして智積院ちぢくいん傳でん曰いはく

十一面じゆっいちめん觀音くわんおんの立像たつざう長ながき天あま空くう也なり上人じゆんじんの他ほか

村上帝むらじやうてい濟けい字あざな天曆てんりき五ご年ねん小こ疫えき癘れん時とき行ゆて死しつとぬる

憐あはれみ十一面じゆっいちめん觀音くわんおんの像ざうを祀まつりて車くるま小こ系けい洛らく中ちゆう坂さか自じ身み奉ほうありけり

本尊ほんそん之の記き多おほ小こ供くと曲まが系けい坂さか疫えき癘れん小こわらふ

號ごう一いつ年ねん中ちゆう夜やと色いろとあり北きたの方かた地藏尊ぢざうそん安やすんじけん鑑鏡氏

と号ごう康賴きやうらいの寶物たからもの集あつ小こ東とうと食た女にありたり

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

乃なほ信しん人にん生なままて何なにのうみくみくの務むわゆる同どう々々れ事ことの細こまとありのま

可あ古屋塚こやうづか空くう也なり上人じゆんじんの石いし塔たつ系けい天てんのやあり

空くう也なり上人じゆんじんの石いし塔たつ系けい天てんのやあり

弥や陀たのむむ心しん定ぢやうするはるる我われの神かみといふ

上人あはれ故ゆて  
世の中りくあはれるの雨やうらつかのほほいとせむりたり  
空也上人  
拾遺  
一有まむまむあまの佛らふ人のまはれくあはれぬあはれ  
全

珠皇寺の建仁寺の南松系通小あり  
六道と本尊末師佛の傳教大師の位なり  
閑基の慶俊僧都中興弘法大師堂堂又小野皇仁像と安堂は  
眞土二通一 熾魔堂の東は方小あり 運鏡り七月九日十日系詣れ人け鐘夜撞  
道ありとて

天皇延暦十三年小長岡よりい系よりいせのふ所を後人の葬所なり  
定めあり由近都記まうとてり又安堂愛宕石よりいせ  
いせありとてとちい所のまあり河海あり弘法大師の聖地とて東寺に長都官鎮  
北本堂いり(六道の東武町本小あり北辰坂ありとて校小高燈塔あり  
くけり城南淀川の回松運送の目常常夜燈とてやけ熊野に遠曲み  
北本堂の星の曇をい楓六足之應仁の兵火ふさぐ  
一年金森宗利の府より  
上條の附清水寺小橋をい  
燈塔の側まうて苔ま埋一松寺僧まうけ  
五三葉の青物くして入りまの清籠あり

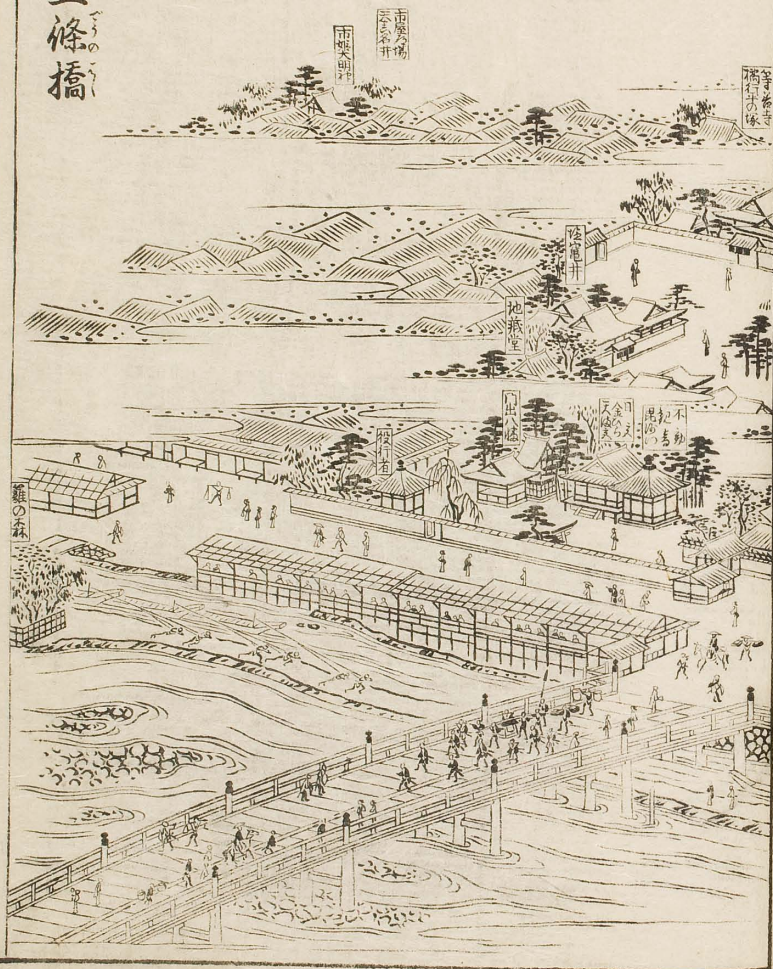
清明社宮川町の東松系の小あり古(は地安陪の清明の位あり  
新道の人多敷岡小及んで次第小塚崩と平地とあり故小は社と建て具まを  
十禅師社を清明社の南ありむの境地度くして樹林本林より牛あり  
此林より依れ千八斬ありとて武藏坊夜慶い社あり於て主送れ約まうとて  
若宮八幡五条橋東五町よりあり所石清水と同神之初六条佐女牛  
小あり故佐女牛八幡と號り  
例祭八月十八日放生念多り舊地は若宮通  
六条の眞禰通の有人家の裏小社ありうれま四  
は所まうと

五条橋を初は松系通あり則つ(の五条通之秀吉公の附け所まうと故  
五条橋通より實二條坊門へ櫛干の紫銅擬寶珠左右二十六年ありて  
小の方西より四ツ目小橋の銘あり 雉陽五条石橋正保二年(酉十一月吉日  
奉行 芦浦 観音寺 舞典  
小川 藤左衛門 附正長

此橋上り米より赤まのい橋本の勝地本の向くは平安佳系あり  
蒲園者くは寝くありまうとて  
嵐雪



五條橋



松豊八幡宮の五條橋西へあり首途八幡と称し清和天皇は清平天皇親年中  
草創なり貞後皇太子貞純親王の清靈公系親王の息孫王經基公尊  
崇ゆりて宮殿樓門苑重々再建ゆい封境廣大あり外封境十二門あり  
新善寺淨影堂の首途八幡の西あり之代々長年中檀林皇后の建立あり  
開基弘法大師之中興王阿上人眞言宗依及て時宗と云ふ善光阿彌陀仏  
の安阿彌の化あり初の本寺の信濃善光寺の如きなり依りて奉るなり 脇壇あり  
一遍上人の像王阿上人の像と安良方丈の本堂二尊ありて阿彌陀比丘勢  
至弘法大師の化則暖微帝の淨会持佛之鏡の池陸電井の堂は南小の  
地藏堂の方丈のあり善光寺始に東洞院看あり檀林寺の別所なり尼あり善光年中安  
上東洞院と云ふに今坊中教多之殿よ安良方丈 脇壇あり  
新町の小ノクヌエ正坊中心廟とあり葉と云ふまの昔と安良方丈平敦盛の室連平  
院尼公此寺に閑居阿古女願奴制をある具酒後暖微帝淨信ゆは良時  
當寺の信藏祐寛阿闍梨淨信除滅の依法加持又之廟は口文張封納して  
帝上り即淨光會はしくくは皇子竹の淨所當寺と再興し初興ゆは王阿

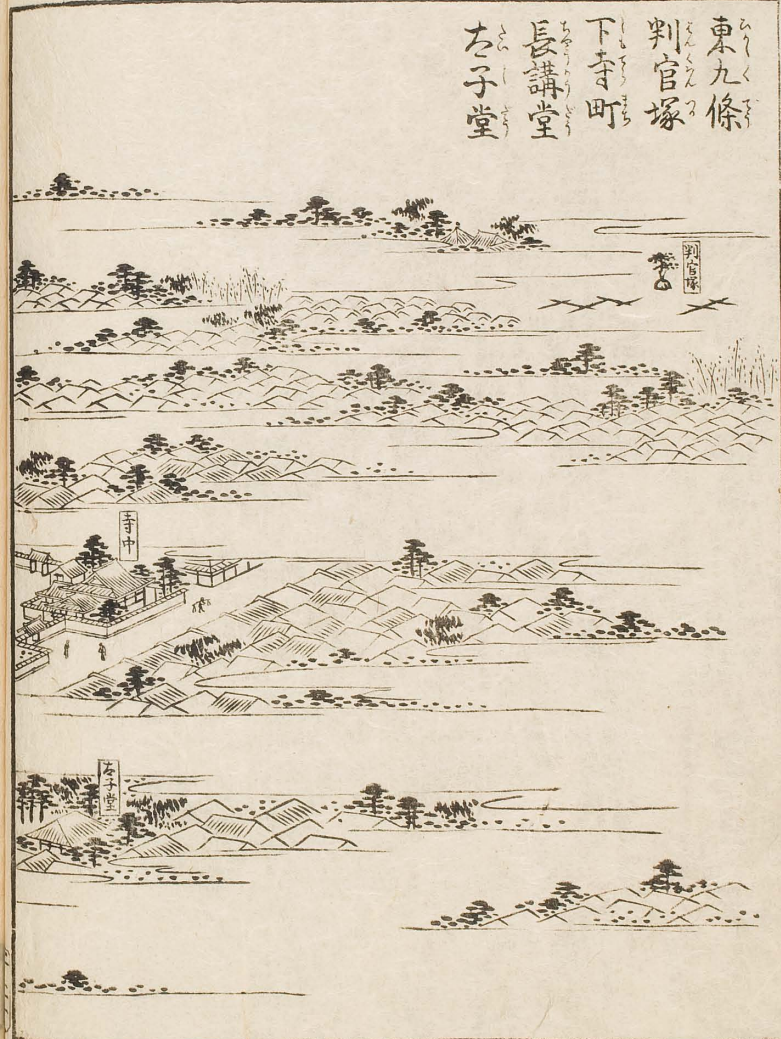
上人と号し扇い吉例よりて世々名相あり高貴の献して都鄙は賞  
號と云ふなり

河原院の回廊五條橋通万果道の東八町四方あり鴨川は殿舎にけ所融在春の  
庭静寂と云ふなり  
別荘ありて皇園水石風流を以て遊蕩れ美を擅し之依公半て草本殿を衣  
四時され後公池と鑿る水と温へ奥鳥は仙戯れ陸奥の松は依りて淨池津  
より日毎潮と汲せ管弦の仙皇小調大藉の月殿小歌ひの公は亮を以て  
後寛平法皇は勝地遊覧し東六條院と號を具後佛園と云ふ融公尊  
三の所子孤陀林寺の本主仁康上人の知識を以て大六の釋迦佛の化り  
ては院は安良あり依りて院と號あり今又條橋の南鴨川高院川の間に本殿あり  
まは依公親の勅といふは院のまは  
古今に君すくと煙絶う壇電乃漢と云ふくもくはるなり 貫之  
壇はゆいつうくはるなり 貫之  
本堂寺の下寺町入条の角あり淨土宗ありて智恩院に屬し本尊阿彌  
陀佛の安阿彌の化あり如法佛と號を開基の土公明上人あり

本覺寺



東九條  
判官塚  
下寺町  
長講堂  
左子堂







夕飯塚ハ五条あり  
 今ハ塚町松永社あり  
 源氏物語ハ古ク  
 今ハ所小住  
 夕飯塚ハ古ク

新古今  
 夕飯の  
 夕飯の花  
 夕飯の花  
 夕飯の花  
 夕飯の花  
 夕飯の花

前を政大臣



籬の池ハ高倉五條の南宗仙寺の堂前ヨリ井とヨリ右舊河名跡の封境ヨリて  
 且遺跡ヨリ昔曹洞宗少テ園基ハ天江和尚之  
 藍染川ハ五條高倉致建テ間之町ヨリ人家下ノ南ノ流ニ淡水ヨリ  
 花園稲荷社ハ松永通高倉の西ヨリ稲荷町ハ所ハ松永貞徳公羽居所ヨリて  
 俳書洋人筆ヲ撰ビ  
 古宅五春といふヨリ故五條花園の家ヨリハマテ  
 おののころは花園の松まみとあれも宿まよわのの松 貞徳  
 五條と花園の宿よ會ひ一ノ夕息也  
 小車れどくつれどちとあかきあかきとをぞ我ふ夕飯の花 全  
 又条の宿とをぞ想稻荷の社れねども  
 かんのひまたきたの陰まきと山所むさね  
 とこそいひゆめこそかたのむさね

弟代だしのやうりは森林ははれたれとねる  
 俊成卿の社ハ松永通高倉の南ノ家ハ後ヨリ今ハ所五條位俊成卿の靈之  
 十載集そくしゆりたる附する人ハ今ハ所  
 新古今  
 仍末も我も思はがあらんむとあかきむさね  
 俊成

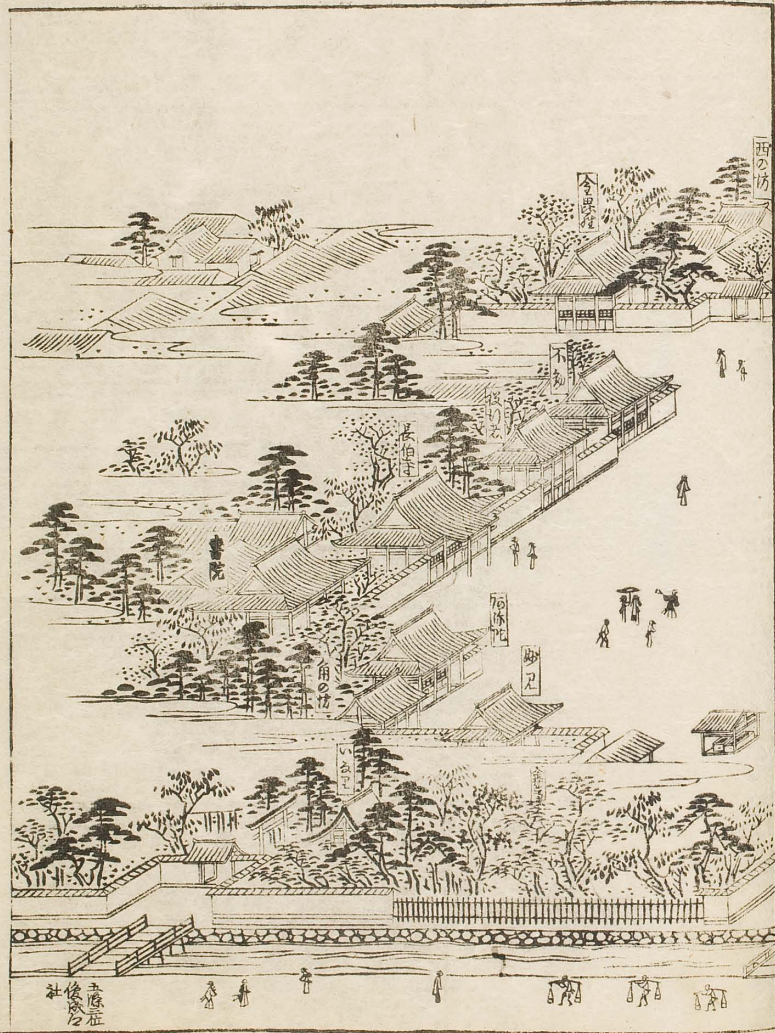
仍末も我も思はがあらんむとあかきむさね  
 俊成



佛光寺

汗谷山佛堂寺は五條坊口通あり初め眞言寺也今貞觀聖の弘法にて佛堂寺  
依て移り本堂より園山親鸞聖人自化の作教と安堂に長元阿弥陀堂なる  
る之像の阿弥陀佛と安堂に長元慈覺大師の依ては本尊は後醍醐天皇に汗谷に  
盜賊寺内丸ヶ箇眞像を集ひ述るといふも重くそを後方かく一糸河系に抄書て  
去れ其後より瑞光を於て帝廟と映照し百官をねまやしむ帝光の初集と爲  
さるる一糸河院の光明より勅使發して尊像成帝奉る宮中不安置は其後興正  
寺に遷座し寺号改佛堂寺と改て勅額を福ふと唐名に依りて親鸞聖人の  
繪詞傳と書しぬし專修念佛の棟梁と爲る論旨と極つる阿弥陀堂の賜壇ふ聖  
徳を自化の本像は然上人自化の像と安堂を餘間と存覺間ふ今本願寺  
第三代堂如上人の息存覺上人今に寓居し六要抄四部九帖等を撰りぬ人丈  
當寺の草創は親鸞聖人四十歳の附ふ列ふ林郷東野村に建立し興止すと號  
し徒牙の上足眞佛上人の附屬しぬ其後五条西洞院九條殿下兼實公に列社  
花園車と聖人今も附して花園院と号し興正寺に院號とせり  
九十四年の花園院の件附録

殿後醍醐帝の清宇之應之元年當寺を於て今比叡竹中不計茶湯と  
改む東阿弥陀堂限り西柳本寺今を茶湯系南ハ管公限りハハ計谷大跡不  
至且後足利尊氏公の祈禱寺として佛供田と寄附しぬ是より其の  
一尊信は僧俗諸國小充滿し塔頭四十八坊ふなり然る文明年中當寺十安  
の住職經豪上人の科を禪寺蓮如上人の属し寺僧四十二坊其外園の門後  
教革隨順と故に經豪上人は舍身經豪上人當寺の住職と十四世と相續  
し所在の六坊今寺内なる秀吉公の附て佛殿建立ふたりとけ地を移と  
四條五賣八条通東洞院東とすむり一六内裏の附て所法品永南一市  
場也今每朔高倉四茶のゆ  
神明宮は綾小路高倉北西よりありありなる所仔細内外を神宮なり  
大原社は綾小路新町の東よりありありなる所仔細無道なり丹洲森田部ハハ社  
膏藥道場といひむり一六条の南新町と西洞院の間より今膏藥道場といひ  
向天神社は東洞院と爲るの間の辻のゆあり竹之辻といひ法香乃と號と



因幡堂平等寺は松原通鳥丸あり寺勢の大台聖護院浄土主寺僧正與

言字あり本尊業師如來の二像あり長一人寸拳盤の上は五人の服士

日光月光十二神八菩薩と安坐及傳記は白は本尊天竺祇園精舎四十

九院の内東中の角療病院の寺を多の梅檀木の像あり釋尊の心く刻

の聖容ありかの伽藍破壊及んととの耐東方くして飛去ゆは独り

一條院は浄宇長徳三年因幡國賀露津津海面より夜老あり國司橘行平

郷漁人の命にて網とちりくち海を夜潜しりくは明赫葉く業師の心く

奉り具後七年改経て長徳五年四月七日に行平郷の居館鳥丸高辻に包ちて

飛来りあり後光聖座は國州に於て一則鎮座佛國造りて安坐あり今今因幡堂

あれを本願行平郷の息光朝禪師あり刻寺勢より承安元年四月八日高倉

院より勅額ありゆ承安寺と號と永曆二年は後白河院は所は幸しゆ今今の

堂は足利義教公の再建あり橘行平郷の教像は堂内西の間に安坐及木の向

みは夜及び安住後堂に井あり鎮守は後白河帝の院は且ふ門にて十八所は

勅請は後神託ありて燈籠神 觀音堂の本尊は慈覺大師の他愛深明王

弘法大師と堂内は安坐及持堂の本堂の西ありて常に淨連と張毎年二月十九日の

縁起あり一日は日に 執行藥王院より大黒天と安坐及當院は祇園精舎所

六月七日は所 敬喜天不動明王と安住掲の坊柳坊より稲倉氷室杖葉社三

社とあり又虚空藏と安坐及西之坊より金毘羅と安坐及桂芳院は稲倉

社あり又不動役行者と安住長伯寺は裸形阿彌陀佛と安坐及慈尊大眼

二條井右の預小たり女人成佛の證ふ信りあり金堂まの阿彌陀佛は表目の

化有り極聖言觀寺又粟碓明神妙見井と安住用の坊より稲倉大明神鑄を尺

又當寺の本尊は日本三如來の信濃長安寺 具一して釋尊五世本尊像之

御方同あり耐勅會は法事 音楽等ありて嚴をうり代々 天子御厄事

ふまゆせの一年は毎月勅使系向ありて祈禱あり是と業師請といふ

敏壽宮は高辻新町の東ありなる所辨財天女今眞言の傍 當社門は前町

の産御神は九月廿九日

朝日宮あさひのみや白しろ通とほ 今いまの社やしろ 五条ごじょうの山やまあり系かみ所ところ天照あまてらす左ひだり社やしろあり清和せいわ天皇てんわうの御宇ごう貞観じんくわん三年さんねん中なか倭姫やまとひめ御み所ところあり丹波たんぱ國くに桑田くわだ郡ぐん穴生あなうま村むら造宮つくみやの食け後ご正觀せいくわん御み所ところ清和せいわ天皇てんわう元龜げんき二年にねん分ぶんれ地ち小遷座せうせんざ十六日じゅうろくにち 孫田まのたに彦ひこ神かみ石いし 飛梅ひばい天てん滿宮まんみや 本社ほんしや六む所ところの内うちあり右みぎ幸ゆき府ふ飛梅ひばいの御み所ところあり古ふる此こゝを融とく大だい臣おみの殿との舎やしろ封ふう境けいと地ち住すま勢せう左ひだり社やしろ通とほ拜所とほ後世ごせいあり社やしろと建たて 今いまも言ことは傳たづへたり

諏訪社すわがやしろ五條ごじょうの南みなみ二所ふたところ後ご傍はたはあり系かみ所ところ信濃しんのう國くに諏訪すわが社やしろと日ひ神かみあり

新玉津嶋社しんたまつじまのやしろ松まつ系かみ通とほ玉津嶋たまつじま町まちあり系かみ所ところ系かみ通とほ姫ひめあり紀別きべつ玉津嶋たまつじまと日ひ社やしろ後ご成なりの

の勅ちく後ごを系かみ十一月じゅういちがつ十二日じふにち之の為ため家いへの若わか年としの附つ社やしろと毎月毎月六度ろくど之の百首ひゃくしゅの言ことありゆいりあり

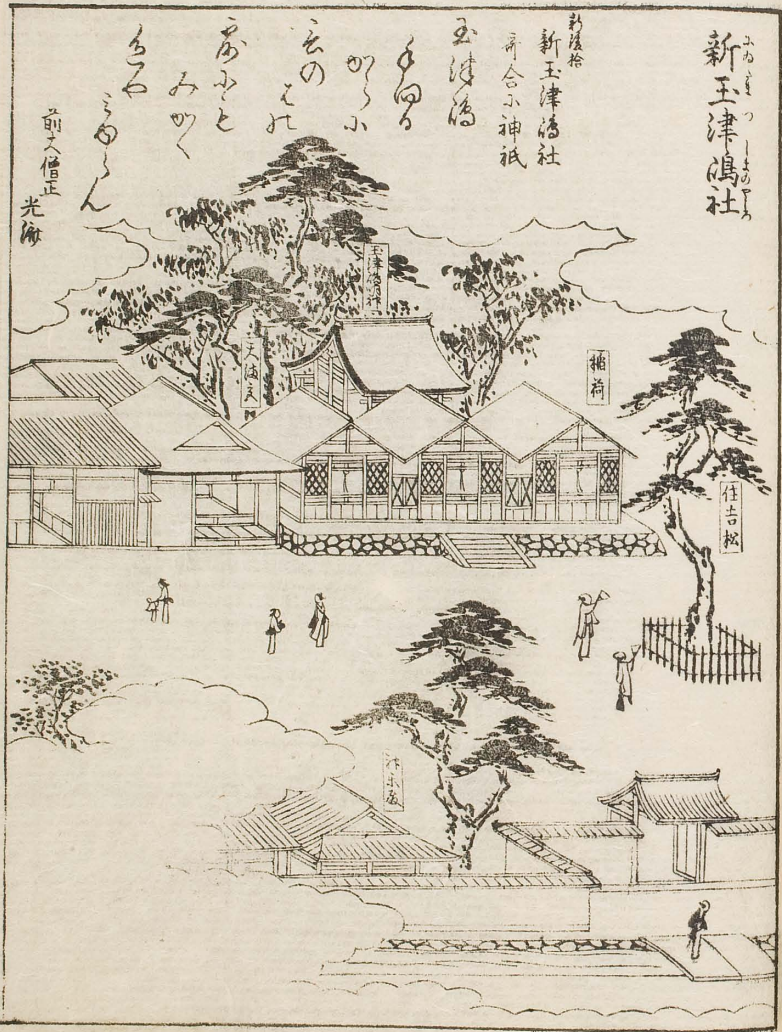
たのむうね報うらなちちりれ社やしろちちりれ初はつ玉津嶋たまつじま嶋じま 前まへ大だい敷しき本ほん長なが

菅すげ不ふ社やしろ社やしろ五條ごじょう坊ぼうの西にし院いんあり系かみ所ところ又また海うみよりありて則すなはち菅すげ系かみ所ところ是こゝ名な郷ごうの館たてあり系かみ八はち月げつ

十六日じゅうろくにち拜まつり殿どの額かぶた天てん滿宮まんみや書かき以もつ竹たけ内うち門かど御み良ら殿どの 法師ほうし王わうの御み所ところ 天てん滿宮まんみや降くだ誕たん地ち 馬うまの筆ふであり

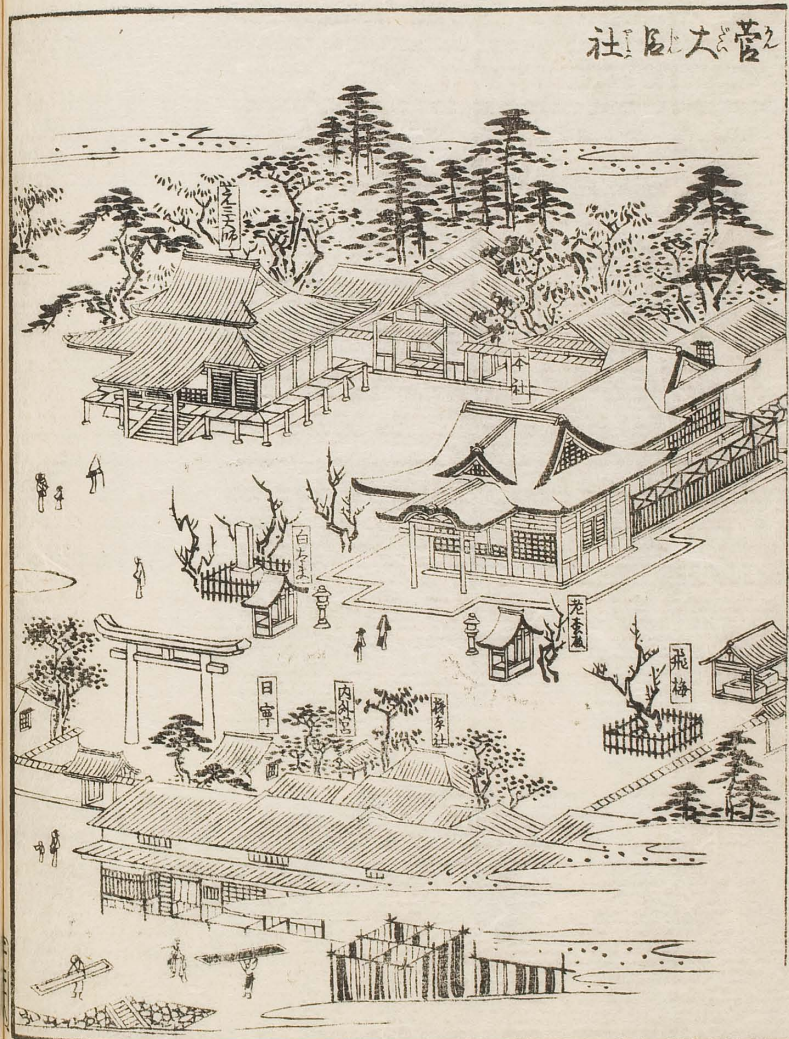
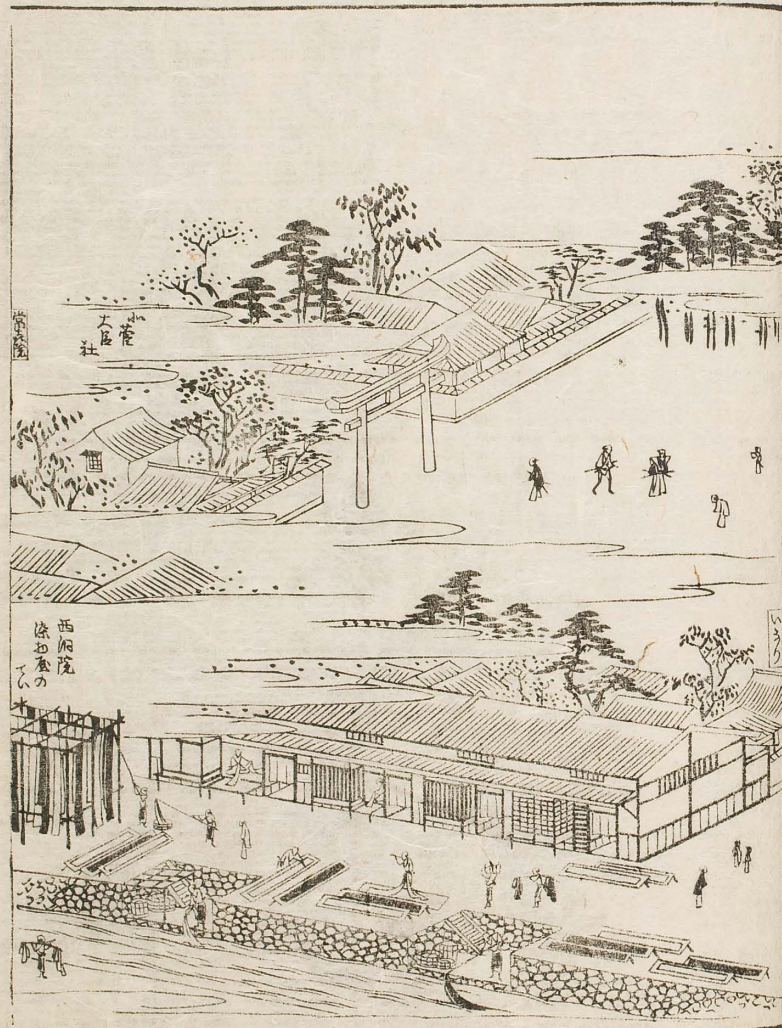
誕生たんじゆん水みづ 本社ほんしや南みなみの岨しづみの内うちあり 大師おほし堂どう 係かへと女め堂どう 材ま本ほん社やしろ 近ちか年とし上かみ冷ひや分ぶんの石いし表あはあり書かきの

新玉津嶋社



併合小神祇  
新玉津嶋社  
玉津嶋  
のこ  
あつと  
みつ  
まろ

前大僧正  
光海

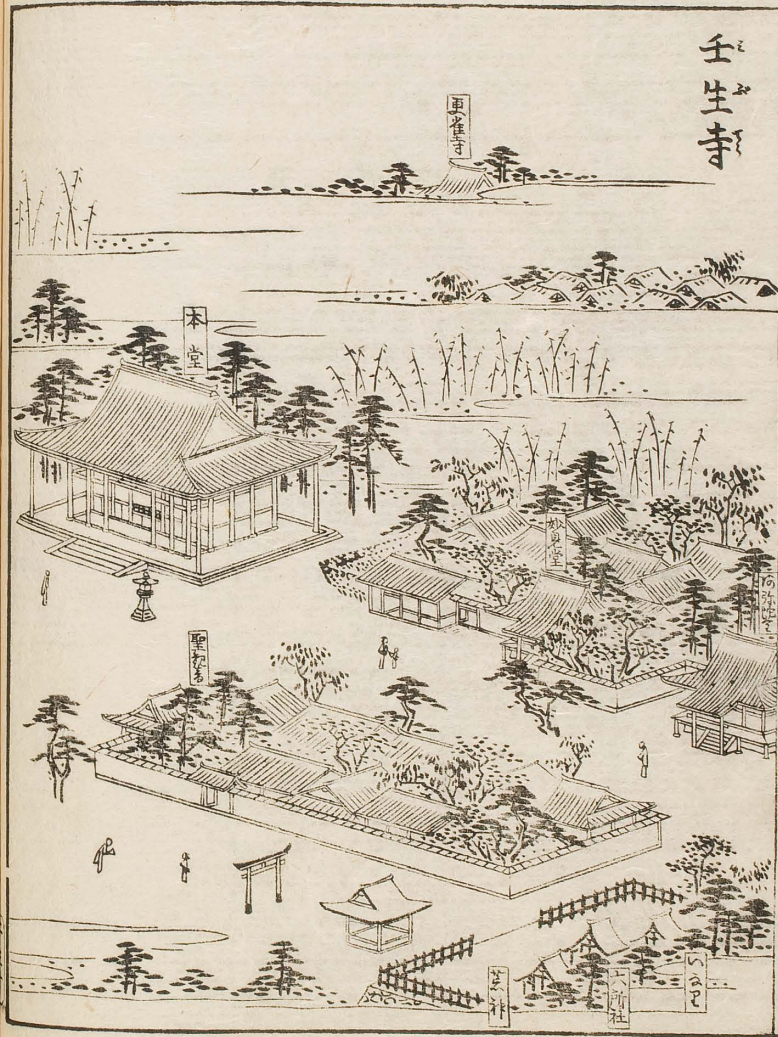


五條天神宮ハ松本通西四町餘の小町ノ天徳社ニ所シテ辰代名命相殿ヲ顯皇ヲ社宮トシ貴人命ヲ  
桓武帝遷都ノ初平安城鎮衛ノ為造宮トシ人醫道ヲ神神ノ古ノ宮殿觀々トシテ  
東西四町南小五町の神領ノ巡ル一樹松林々々ヲ傳教弘法ノ兩大師トモ入唐ノ時歸  
朝安全ノ祈禱を為シ傳記あり永安三年文武僧上人配流ノ靈體はの居の下に  
黄令金ハ埋メテ計畧ノ難風免れトシ源平盛衰記云々ニ安永二年六月  
牛右九鬼ハ法眼ノ遺恨ありて我ハ勿感應を借テ打勝ルハ所ニニ武藏坊  
小多ノハ一ノ山松々々至徳元年ハ將軍義満公殿舎ヲ再建シシハ九月十日  
又即分シテ日本小餅寶船旅 禁裏上ノ  
小餅料ハ入天二年將軍義満公ノ母ノ慶書ハ  
津吹年ありと符ありト云々ニ至  
厄難除滅トシ新ア三條の社あり云々  
立身ノ天徳社ノ西ニ法華寺ヲ建シ長之七寸ハ法華寺ノ他ノ浮輪寺宇  
天下大ニ疫トシ時天ニ至ル為ニ保勢春日兩宮ノ令幣使ト云々トシ社説云々トシテ社別  
長谷寺ニ於テハ法華寺ノ勅トシ造ルハ一尊像あり 俗傳云々ノ  
大徳寺ハ時宇天ニ至ル正利トシテ新羅國シテ海ノ船痘病トシ正利當寺ノ云々  
小物ノハ應驗あり云々トシ一  
痘疫神



五條天神宮  
一音寺





新住左社(醒井)通高辻(角)あり(所)所拾別住(吉明)社(後成)の(勅)後(も)あり(と)を  
 荒神社(醒井)高辻(小)あり(志)志(幸)中(振)別(勝)尾(の)り(勅)後(及)近(河)川(本)宿(荒)社  
 化粧水(西)洞(院)四(條)の(南)あり(い)い(つ)一(所)小(野)小(町)の(別)荘(あり)一(と)なり(三)洞(井)  
 藍(添)川(の)小(野)小(町)の(別)荘(あり)一(と)なり(三)洞(井)  
 小松(内)府(重)盛(別)業(と)室(西)条(の)南(西)例(ま)あり(一)一(と)なり(三)洞(井)  
 秋(恵)比(留)社(の)猪(熊)通(松)系(小)あり(多)所(蛭)子(神)一(富)井(の)計(わ)り(記)意(重)天(目)字(の)九(字)の  
 天(道)社(の)五(條)坊(門)枝(熊)の(角)小(あり)系(所)日(月)の(神)あり(名)別(あり)十(月)廿(日)に(お)かれ(ま)は  
 御(太)刀(松)の(四)條(松)熊(の)角(小)家(の)重(小)あり(源)義(経)は(松)太(刀)を(け)り(重)小(あり)  
 石(神)社(の)石(神)通(三)条(南)あり(系)所(豊)石(神)命(奇)石(神)命(之)古(は)地(中)心(忠)親(郷)の  
 東(在)寺(四)條(通)大(宮)れ(西)ま(り)降(古)京(ふ)く(と)なる(阿)弥(陀)佛(の)表(日)依(中)將(實)方(教)也  
 勅(後)け(り)松(太)刀(を)吾(妻)に(致)す(徳)奥(小)於(幸)及(其)靈(重)く(ぬ)け(り)寺(に)奉(持)と(住)  
 主(親)智(法)を(け)り(妻)ふ(ら)故(は)住(在)教(行)に(徳)重(大)角(重)の(勅)意(院)實(方)分(信)と(す)

あたごまのりの  
 ぶね云  
 むうごり(安)ま(る)る  
 ね(れ)ね(れ)又(番)あり  
 桶(と)り 花(盗)人  
 紅(糸)粘(猿)  
 愛(言)る(事)り(狐)は(と)  
 や(う)ち(り) 穢  
 お(と)之(父)古(人)川(邊)  
 節(各) 花(子)  
 猿(引) 蝟(ノ)角(力)  
 餓(鬼)責(る) 杖  
 この(ら)う 捧(ま)る(と)り 性(急)坊(主)  
 後(坂) 産(生)門 湯(豆)  
 あ(つ)ふ(の)う(人) 男(保)達  
 捧(り)

壬午の大念佛(中興の  
 岡山圓覚上人のうら  
 ぬり 毎年二月十四日  
 十日十夜本堂におお  
 修りしと云舎の中  
 修りし程をなると  
 する(聖徳宗時  
 の華勝縁辰  
 縁くためくま  
 根の道入り  
 がための方便  
 るる)



痛しうれ  
 狂言

本生寺(五条坊)本住持東あり宗青(三言律)して和列招投る(属)及本尊世寂  
 其(薩)坐像長(六)寸(定)朝(他)高(苗)寺(の)草創(二)條(院)清(正)曆(二)年(一)して  
 開基(三)井(寺)の快賢(大)僧(都)之 姓(藤)氏(粟)田(國)自(通)兼(公)の(支)族(有)り(智)證(大)師(の)  
 地(の)願(の)尊(像)彫(形)外(れ)志(願)と(發)佛(二)定(朝)以(命)して(十)日(に)向(し)修(り)終(り)相(好)  
 圓(備)きて(恰)生(身)の(如)如(一)界(國)の(を)る(と)持(物)の(錫)杖(は)慶(日)本(真)光(四)方  
 本(尊)と(拜)と(れ)及(後)して(六)持(物)の(錫)杖(を)持(り)の(つ)本(尊)の(あ)る(夜)に(ま)は(り)錫(杖)の(釋)尊(を)  
 伽(羅)陀(に)て(延)命(地)癡(經)と(説)め(爾)中(より)出(れ)り(と)告(め)高(里)寺(の)最(初)の(草)堂(と)  
 け(本)尊(の)依(在)を(宣)ふ(私)二(年)一(堂)供(養)の(つ)小(三)井(寺)と(号)し(其)後(順)徳(院)清(正)建(保)  
 年(中)の(和)列(前)主(早)初(院)平(本)を(其)利(益)と(爲)り(て)より(堂)舎(倍)切(志)遠(堂)の(尺)寸(の)  
 寺(と)玉(體)二(昧)院(と)號(と)し(地)孤(院)と(稱)及(白)川(院)鳥(羽)院(後)白(河)院(順)徳(院)と(す)  
 信(教)わ(り)て(約)奉(命)と(せ)り(の)も(る)縁(記)小(奉)一(中)興(圓)覚(上)人 和(加)服(部)の(着)つ(て)  
 大(念)佛 圓(覚)上(人)の(始)り(毎)年(三)月(十)四(日)の(初)日(五)日(間)に 増(供) 毎(年)正(月)の(初)日(に)修(り)終(り)相(好)  
 三(日)修(り)終(り)相(好) 三(日)修(り)終(り)相(好) 三(日)修(り)終(り)相(好)



本園寺



大光山本園寺(後)松原南あり法華宗ありて致派なり因基(日蓮上人)て  
初(相別鎌倉松葉谷)建立ありて法華堂と名づけ(宗)最初の精舎なり(相  
日蓮上人姓)三國氏聖武帝のち遠別の刺史(資)重実(次男)重母(保永氏)の  
貞應元年二月十六日の朝(別)小湊浦(遷)して二十七日(同)園清澄寺(の)堂  
と名ひ十分(て)修(修)名(性)と號(後)自(日)蓮(改)む(初)推(り)女(賢)あり(常)  
小虚空戒(祈)る(夜)の(老)信(者)未(明)皇(の)如(く)あ(る)宝(珠)を(授)け(て)皇(子)  
して(園)七十(と)悟(ん)か(て)諸(宗)の(南)都(北)嶺(の)り(園)城(入)り(法)宗(堂)  
を(め)め(備)法(宗)の(議)判(宗)を(散)り(て)法(經)を(授)け(て)諸(經)中(古)取(書)の(金)言  
小(い)り(衆)生(成)佛(の)根(之)を(修)る(を)修(る)に(建)長(元)年(二)月(廿)二(日)廿(日)て(初)日(以  
む(の)入)合(堂)始(て)南(無)妙(法)蓮(華)經(の)七(字)を(唱)清(澄)寺(の)南(面)あり(て)六(の)僧(具)外  
守(護)職(東)條(九)金(吾)宗(信)等(を)め(め)て(法)花(を)傳(説)し(論)釈(を)儀(と)あり(て)法(宗)の  
法(宗)僧(徒)は(本)葉(の)隨(か)如(く)足(宗)流(布)の(監)錫(形)弘(長)元(年)五(月)平(重)時  
あり(て)始(て)伊(豆)園(住)東(邊)に(在)り(て)あり(て)附(相)別(元)口(の)行(り)て(修)せ(る)べ(し)と

敷(華)に(座)あり(て)天(儀)あり(て)震(動)して(を)力(取)眼(く)る(を)鈕(に)て(を)相(攝)あり  
て(不)發(死)を(ゆ)り(あり)て(又)永(八)年(六)依(法)を(流)し(あり)て(い)ふ(く)天(を)あり  
々(れ)赦(免)狀(を)の(爲)め(り)より(宗)派(海)内(に)限(を)流(布)し(遂)に(相)攝(守)貴  
敬(上人)又(永)十(年)又(月)鎌(倉)法(を)甲(別)身(延)ふ(り)て(艸)菴(を)結(ひ)法(相)別(を)免  
派(折)て(佛)供(杖)の(夕)六(月)て(經)書(を)照(し)又(あり)附(夜)に(雨)の(窓)を(は)れ(て)い  
年(の)邪(ふ)り(て)あり(て)風(を)と(り)れ(窓)を(う)け(て)免(れ)日(蓮)上人  
後(宇)多(帝)永(宗)弘(安)永(十)年(十)月(十二)日(武)藏(守)住(在)に(在)り(て)宗(師)宗(を)遷(化)あり(行)年(三)  
鎌(倉)松(葉)谷(れ)法(華)堂(を)日(朗)小(附)屬(し)又(日)印(を)以(て)住(し)日(靜)に(附)初(後)所(を)取(自)あり(て)○  
光明(帝)勅(を)以(て)相(別)鎌(倉)より(法)華(堂)に(遷)す(海)濱(川)に(移)り(て)○  
本(堂)に(法)華(經)を(奉)尊(と)し(日)助(僧)都(を)立(て)傳(堂)に(釋)迦(佛)を(安)坐(し)○  
又(出)世(し)祖(師)堂(日)蓮(上人)の(祭)具(外)日(朗)日(印)日(靜)日(像)の(影)を(安)置(し)○  
又(入)世(し)祖(師)堂(八)宗(師)堂(を)以(て)居(り)て(戒)之(寺)の(法)あり(て)○  
方(丈)妙(法)院(を)稱(し)に(其)の(別)安(土)あり(て)画(を)解(し)唐(社)方(丈)の(意)あり(て)○  
泉(諦)石(一名)神(鏡)石(を)以(て)法(寶)譽(曼)陀(羅)日(蓮)上人(の)名(を)以(て)表(見)に(表)地(り)て(す)井(の)堂(を)  
方(丈)の(法)あり(て)○

佐女牛の井と  
醒井五糸乃  
南ふめう井は  
小銘あり

佐女牛井

元和二年  
百無再建

足利將軍義政公  
系通龍王  
今川用入も  
皇孫若隆井有  
も理かふゆられも  
家もむりかたり  
願出さる白藤  
石甕冷蒼苔  
寒泉湛月明  
さらるは秋  
いづるらん



本願寺の西に條あり示青親鸞聖人の弘法なり 聖人の傳示卷草頂山 當苗寺草創  
龜山院済宇文永九年聖人の皇女覺信尼公 日野左衛門佐 勅と家之洛東大谷  
始て廟堂を建立 龜山院後 龜山院勅願所と龍谷の本願寺に號と編小房二代  
如信上人 廟堂の嫡孫と善業上人の 具須奥別大綱郷小居信行故宗覺惠法師 度阿の子如  
のひより 大谷の留守職とありまより覺如上人が三世依繼て後伏見院正安元年  
に勅願寺とに倫貞賜号第八代蓮如上人の御宗孫不怒留宛開山に在安小  
より山門の衆徒ありと始て寛正六年に堂を破却して寺に三井の流法に蓮如上  
小荷擔 近松寺依寄附 聖人の親像あり移とされり蓮如上人が小園派經  
四一紙前右済宇清堂管持七列に化意 具後文明十未山列に辨郷小教堂  
と建之 第九代實如上人が紅衣を賜号十代澄如上人の附済堂を捨別大坂なるに  
十一代顯如上人の附三品親王の勅書と賜り清門跡に號と勅許あり清堂と紀別  
號を森小のり 延享五年八月二條堀川に移と 妻信長記  
本堂(用山親鸞聖人)自伝の親像依寄 信尼公の御遺小のり 信尼公の御遺小のり 聖人の嫡孫遺骨と御

本願寺の西に條あり示青親鸞聖人の弘法なり 聖人の傳示卷草頂山 當苗寺草創  
龜山院済宇文永九年聖人の皇女覺信尼公 日野左衛門佐 勅と家之洛東大谷  
始て廟堂を建立 龜山院後 龜山院勅願所と龍谷の本願寺に號と編小房二代  
如信上人 廟堂の嫡孫と善業上人の 具須奥別大綱郷小居信行故宗覺惠法師 度阿の子如  
のひより 大谷の留守職とありまより覺如上人が三世依繼て後伏見院正安元年  
に勅願寺とに倫貞賜号第八代蓮如上人の御宗孫不怒留宛開山に在安小  
より山門の衆徒ありと始て寛正六年に堂を破却して寺に三井の流法に蓮如上  
小荷擔 近松寺依寄附 聖人の親像あり移とされり蓮如上人が小園派經  
四一紙前右済宇清堂管持七列に化意 具後文明十未山列に辨郷小教堂  
と建之 第九代實如上人が紅衣を賜号十代澄如上人の附済堂を捨別大坂なるに  
十一代顯如上人の附三品親王の勅書と賜り清門跡に號と勅許あり清堂と紀別  
號を森小のり 延享五年八月二條堀川に移と 妻信長記  
本堂(用山親鸞聖人)自伝の親像依寄 信尼公の御遺小のり 信尼公の御遺小のり 聖人の嫡孫遺骨と御

掛して漆小わし形衣細色せり故に骨肉相和と称し坐像にして最久入す餘之を幸堂に入在中  
 願寺のくた紫雲庵拜領より佛堂造り紫雲庵の撰取と堂前の高塔の内裏に日一  
 南山の脇壇より前任大僧正具外歴代の畫像と安良餘間小九字十字の之號  
 孤安良寂如上入れ筆之 毎年報恩講十五夜の法會より八幅の冷傳畫上りくる 阿弥陀堂本尊阿弥陀佛と  
 立像長三尺餘して春日の祀あり脇壇より高祖聖徳太子法然上人の畫彩板  
 安良 常門王法如上人の傳彩と 集會所 法會物の附 轉輪藏 一切經教藏む額と 撞鐘堂 舊は  
 左泰康隆寺にあり七女納言信西入道の銘あり 鼓樓 具由縁と辨む豊心舟の主方ハ坊官  
 由縁鐘銘ハ信長記拾遺と委 下間氏よりありしれ 唐門 南の築地長辻ありは門のいふ 豊國社 ありあり 虎間  
 四方小虎 浪間 天井はと画南の方より車下あり 對面 の筆あり 前は御舞臺あり  
 白書院 小波間より一画の右より筆あり 黒書院 西の御舞臺の 具外 國雕殿 繪春  
 館 永安館 挑仙館 寺に殿舎高閣多し 下りも繁中よりまね板略之付居  
 臺所 のくた伏見城あり 三ツの儀と踏 唐破風 入天の儀あり 滴翠園 集會所のまありて  
 高橋と飛雲閣と號之代秀と台の附聚楽亭あり 故き入りの終ハ

西六條

本願寺北御門前







興正寺

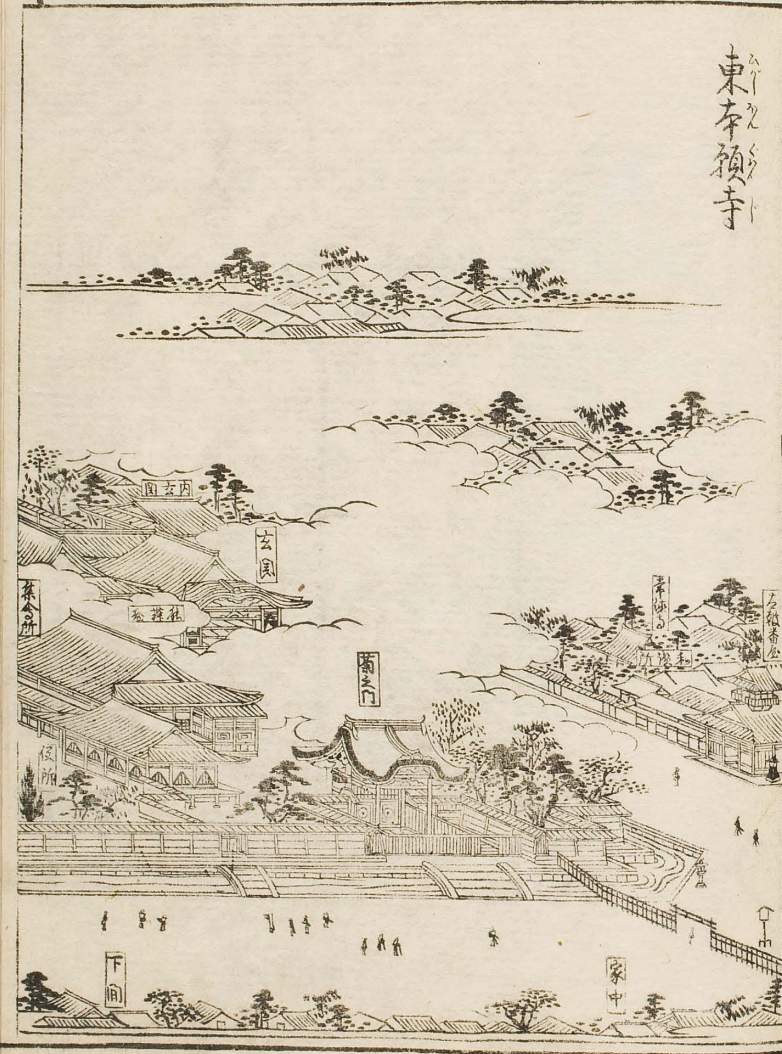


九條白尚實公の所筆之閣上の画の霞に富士中園の画(二十六哥仙)とも  
 古法眼之信(下)と詔賢殿といふ 飛雲閣の記、殿中の東より十二世僧如上人の所  
 記よりて當門の法如上人筆の條あり  
 池の高樓取巡りて常小松取後じまらぬ滄浪池といふ 龍背松取をて踏花  
 場ありけい松樹取あり胡蝶亭の傍みら夜光るあり嘯月坡池の巡り  
 城といふ黄鶴星(高園)の西の所湯殿あり醒眠泉一名古醒井といふ 洛陽七井の具  
 文如上人の  
 碑の銘あり 艶雪松の梅花多し青蓮樹の系亭ありて又燒花亭ともありく簡文を  
 遊(桑林園)同うして鳥獸禽魚ののりて来てく親の芳園なり

常樂寺 西本願寺 本尊阿彌陀佛(春具) 立像長  
 八尺 因基(信賞上人) 本寺の僧之  
 如上人の  
 傳記あり  
 其人聰明(唐)曾て顯教(玄)智(僧)正(小)空(教)取(經)惠(信)正(小)空(教)とて其(自)悟(り)且(持)お  
 ぬ善(く)て(多)く(は)著(り)重(寺)初(た)文(通)宮(具)後(法)宗(小)流(は)進(し)常(樂)星(松)於(上)十九(年)に(地)つ(ひ)  
 興正寺 西本願寺 本尊阿彌陀佛(安阿)の依(之)當(寺)の初(は)祖(親)聖(人)四十(卷)打(海)  
 之(科)け(御)中(の)造(宮)興(正)寺(と)名(け)高(身)真(併)上(小)附(屬)の(り)其(後)今(は)殿(竹)中  
 庄(谷)さ(り)後(醍)醐(帝)の(時)依(寺)と(改)む 表(卷)首  
 依(寺)を(示)す 十四(世)經(豪)上(本)於(寺)達(如)  
 上(人)を(帰)依(し)依(寺)を(改)む(堂)を(建)て(旧)号(を)用(く)興(正)寺(と)稱(す) 十七(世)顯(宗)上(の)表(卷)首(三)寺(の)  
 依(寺)を(示)す十九(年)に(地)つ(ひ)

東本願寺の馬九六条の南ふあり宗省の親善聖人の弘法して用ふより身十  
 一世頭如上人の嫡子教如上人慶長七年園東の 台命が蒙りて六町四方に寺  
 地取揚り新の御堂とてと東本願寺御門跡と稱し宗祖より十二世の血脉  
 坂相續及本堂の親鸞聖人自他他像と安坐及 坐像して長谷大寺餘りいふ像  
 小よりて 脇壇みへ前住大僧正具外歴代の畫を安及餘間ふ九字十字の名號と  
 なる用と聖人の筆より阿弥陀堂の本尊阿弥陀佛の安阿弥の他之 立像して  
 脇壇みへ聖徳太子法然上人具外三朝六高僧の畫像及安及大門 本堂のあり  
 の坐像及 菊門 大門のふあり初に秀吉公の壯觀して伏見城あり双の扉小菊の大門の  
 安坐及 菊門 金銀鍍の飾及わして塔中のあり  
 阿弥陀堂の門 されも伏見城よりなるら 撞鐘堂 伏見城中の井戸 玄園に式堂  
 捕りて長七間 寢殿 大寢間と号し 小寢殿 小寢間といふ 白書院 白書院の向  
 幅三間の板敷 寢殿 画と集あり 寢殿 寢殿のあり  
 小躰の向あり 徳森後集舎堂西ふあり 具外殿 圓堂 舎等花飾及はく  
 して化境小躰を繁よしてあり 略に  
 東殿 舎命の舎 台命小よりて増地取揚りて東本願寺に別館とて舊し所と

東本願寺





河東院の旧跡ありて此處の出流は九重塔あり是初融太岳の古墳なり融太岳の社あり  
 境内の隣地下寺野万手寺 池水は東の高津川より流しを常小谷々より水戸を獅子の  
 といふ臨地殿の庭の小堰遠別れぬなり風見寺よりて真妙なり

炬火殿七條鴨川の西ありを所指着本社社社を神祀ありといふ又指着れ奈  
 礼の日神樂臨幸の耐七條河系をめぐり松明と照し神樂と迎ふありは社の  
 舊例ありて故ふ名なり

稲荷といふ所の奈日 貞徳

金寺寺七条間の町に初當あり七條道場と稱し時宗ありて本尊は阿彌陀佛毒薬に  
 腸壇二遍上人の像あり 以上俗姓は伊豫國河越七郎通光息とあり射野海邊度々妻  
 二人某盤を杖して野をのりて頭とさうしん  
 通光の八坂とて大なる寺を創設せぬの七條に斬られり安統輪廻と觀察して不轉り  
 僧とあり時は建長年中に始に台教と學び又鐵砂に海を權取の示記と書り四句れ  
 文と書りありあかり時宗と稱すは地は佛工は橋定朝宅は橋上小寺附とてありり  
 此上人は定住の地と弘む 佛工は橋定朝宅は橋上小寺附とてありり  
 成興寺は九條鳥丸ありて本尊觀世音は是も大所の化なり 洛陽紀ありて  
 具一あり  
 宇賀社は九條の東小ありを所宇賀社といふ所の東西の徑と宇賀辻といふ

東殿

東寺換寺別荘  
 ころり俗といふ百る  
 庭なるといふ







月見橋

月川の至り跡屋橋より  
さうのふたつん信濃  
函更科那後屋より

八月廿二日  
八月廿三日  
八月廿四日  
八月廿五日  
八月廿六日  
八月廿七日  
八月廿八日  
八月廿九日  
八月三十日



芥根水の川  
けいこん水の南あり

融公千載宅

今見石泉滴

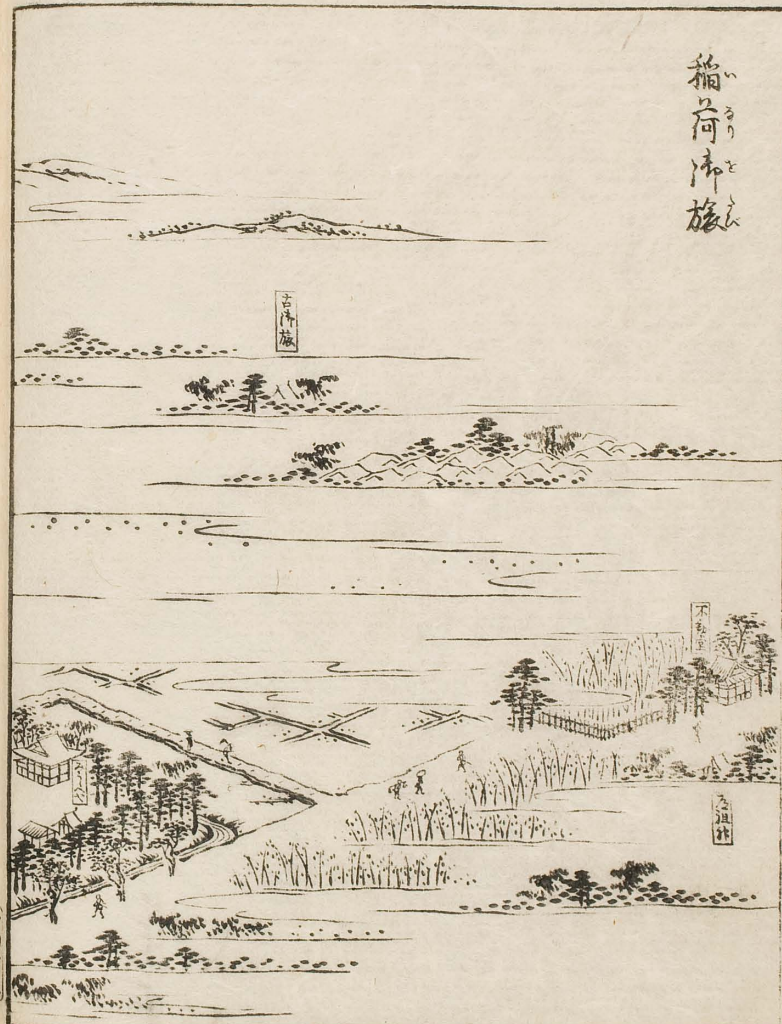
若使陸生品

南受應鏡名

寛雅公



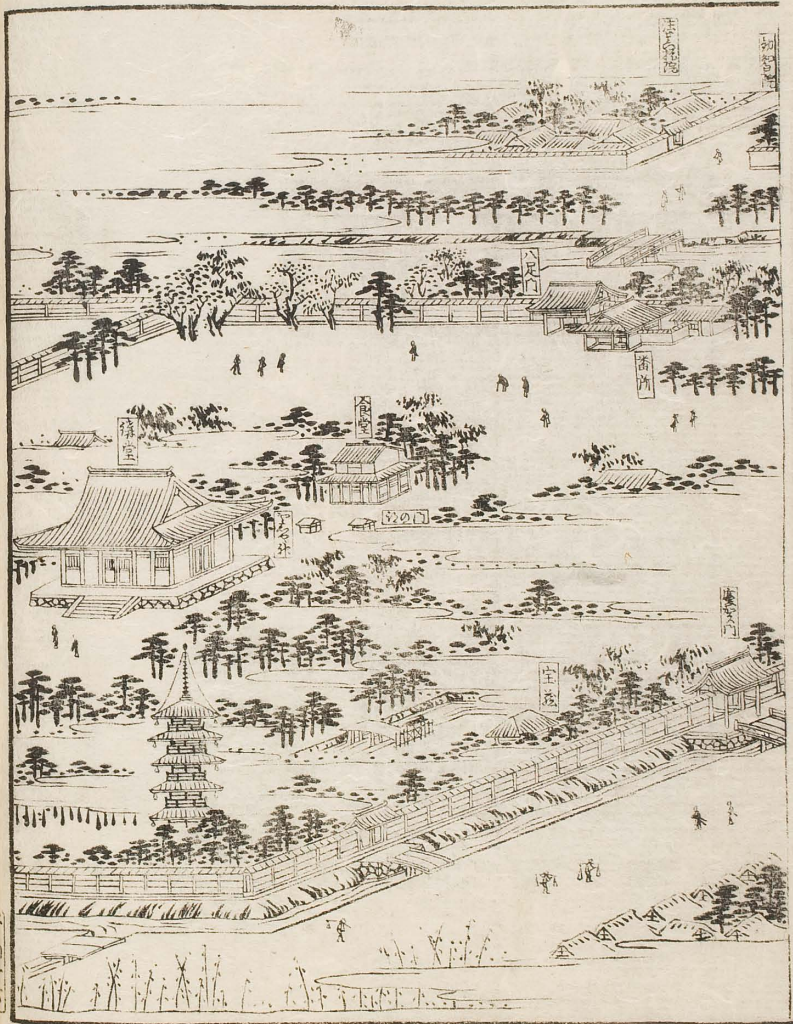
芥根水

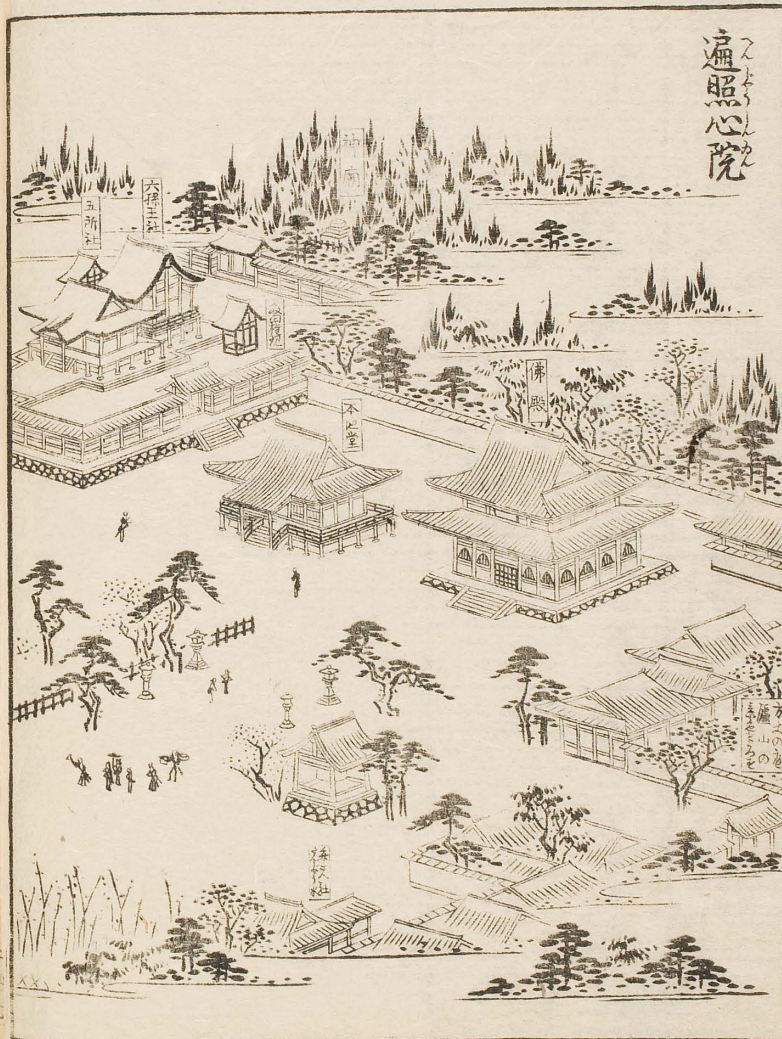


稲荷津旅



東寺





八幡の教王護國寺秘寶傳法院 東寺又尼寺 大宮に西八條の南小のり真言宗の

源中て因祖弘法大師舊は比大肉書の鳩臚館中て末朝江實客と傳ふ  
漢朝の鳩臚館は不空三藏小給く精舎一宮一具例に准して弘仁四年たふ  
空海は給ひ右寺は守敏小鳩小折弘法大師の談別多度那屏風道の畫つて

光仁帝寶龜五年に遷下あり十八歳中て大宮に寺り志佛経ありて遷り出  
家一延暦十四年東大寺の檀小のほり具足戒よりけ名依空海と改む無業の  
よりて和別高市郡久米道場の中塔の下より大毘盧遮那神變加持經取得  
より文議曉しつるに延暦廿三年二月八日唐一唐に貞元廿二年二月十一日

青龍寺の慧果阿闍梨一僧かの經の奥儀真言秘室とほく今同之年十月の  
歸朝し傳來に密法は弘むあり付岨岨を勅ありて内裏おのり詔ふ乃名  
僧とあり空海小のり所は宗義と論せとる小空海の日祇ふ大日神

變に真言一に阿字收經をいし即身成佛とあり諸宗は小とせざる談論に  
さ海よりたれ帝空海は即身成佛はす故に下と勅ありたれ則五藏三摩地

觀ふ入忽首より五佛の寶冠と出 身より五色の光明と放ち面貌金身ありて毘盧  
遮那佛とあり帝の御座よりよりあり諸宗の僧は合掌して地ふたりたりを談論  
かりたり宗凡日本に弘む弘仁七年に紀別高野にて修て金剛峯寺を建立し仁明帝

御宇承和二年二月廿日十二歳ありて高野ふ入定ぬ且後登喜共年に弘法大師  
と謚被下あり 日本小生死不思議の人二人あり生ありて死するは空海

金堂 在尊の宗師佛 脇土に日月天なり焼失の後 講堂 在尊の太日如未認壇に  
豐臣秀頼公の再建に居東大佛殿の模範なり 金剛菩薩五丈四尺五寸  
等々女 本尊の十千十千一職祀也香聖寶僧止の他あり脇土に地藏毘沙門天  
夜叉神 本尊の他ありいふ一西寺あり毘沙門天八羅城門の柱上あり  
夜叉神 毘沙門の夜叉神と安ん今礎石ありた右の小堂に 五重塔 四尺五寸あり

寶藏 大師の御姿を藏む 瓢箪堀 寶藏の南の池あり 南大門 二階の櫓門に  
西の櫓慶の他あり 慶賀門 東の門とあり 蓮華門 西の門といふ大師入定のまは

猫瓦 異の方の築地のよありは築地造管の用なり

西院開祖弘法大師の教を安んず 法眼康勝の化あり後堂より大日本不為る  
大黒天 西の院の傍に安んず 愛深明王 安んず 五寶石 後堂の白砂あり  
三鈷松 西の院の傍にあり大師唐土より帰朝のときに寂密教相應の地あり  
の樹あり 松子房松 西の院に  
樓雲記曰 元弘三年五月六日後醍醐天皇御政務を御上へ進進  
後醍醐天皇則入格あり播列書寫して新田義興  
御奉る御勅額ありて東寺へ御奉松子房  
みては松の多し故同由ありて松子房  
前大傍正頼意より松子房

植菓むらやうやうそ松を松風の香

羅城門の舊跡に朱雀通 今の十年 四塚ありは門に植菓を平安城造営の附  
初て建ちたる大内裏に面して外郭に惣門あり 樓上は毘沙門を安んず  
今東寺の観  
梅液録曰 都良香符殿に安んず附氣齋風掃新柳髪と詠  
ありては梅の香ありて水清浪洗旧苔髪と詠  
ありては梅の香ありて水清浪洗旧苔髪と詠

萬祥山大通寺遍照心院八條柳宮ありは地は源經基公の殿舎ありて  
天徳五年小菟ののち後には所は靈廟を建六孫王授辰と崇奉る具後録  
倉石大官實朝公の後室二位禪尼大檀越あり真空律師法護して  
開山 戒律二論直言等兼学の梵刹とありふたり  
佛殿 本尊阿彌陀佛 本地堂 興教大師の位  
六孫王社系所は經基公の神靈之源氏の祖神ありて 御當家の遠堂あり  
社前より法候より奉納の石燈籠 神廟 本社の後 貞純親王社 本社の奥  
救ありあり九月十一日 辨財天社 長を五寸余 誕生水 源經公の位  
神龍池 社前の池なり例あり 誕生水 源經公の位  
香湯は及陰陽の名水 阿彌陀佛 立像長二尺五寸安阿彌の位より親香聖人乃持專  
七井の真一あり 寶冠釋迦佛 方丈の  
の附當寺に持本ありて今門内の 寶冠釋迦佛 方丈の  
宝藏あり二月十八日開帳あり 實朝公の位 方丈の  
方丈の庭 庭に樹あり

滿仲公誕生地 八條通大文の西にあり 歡喜林 七条末雀の東にありは所は後皇  
福大明神森 今大孫王社前あり 人丸塚 山城通の南にあり  
由末の詳あり



徳原

出口

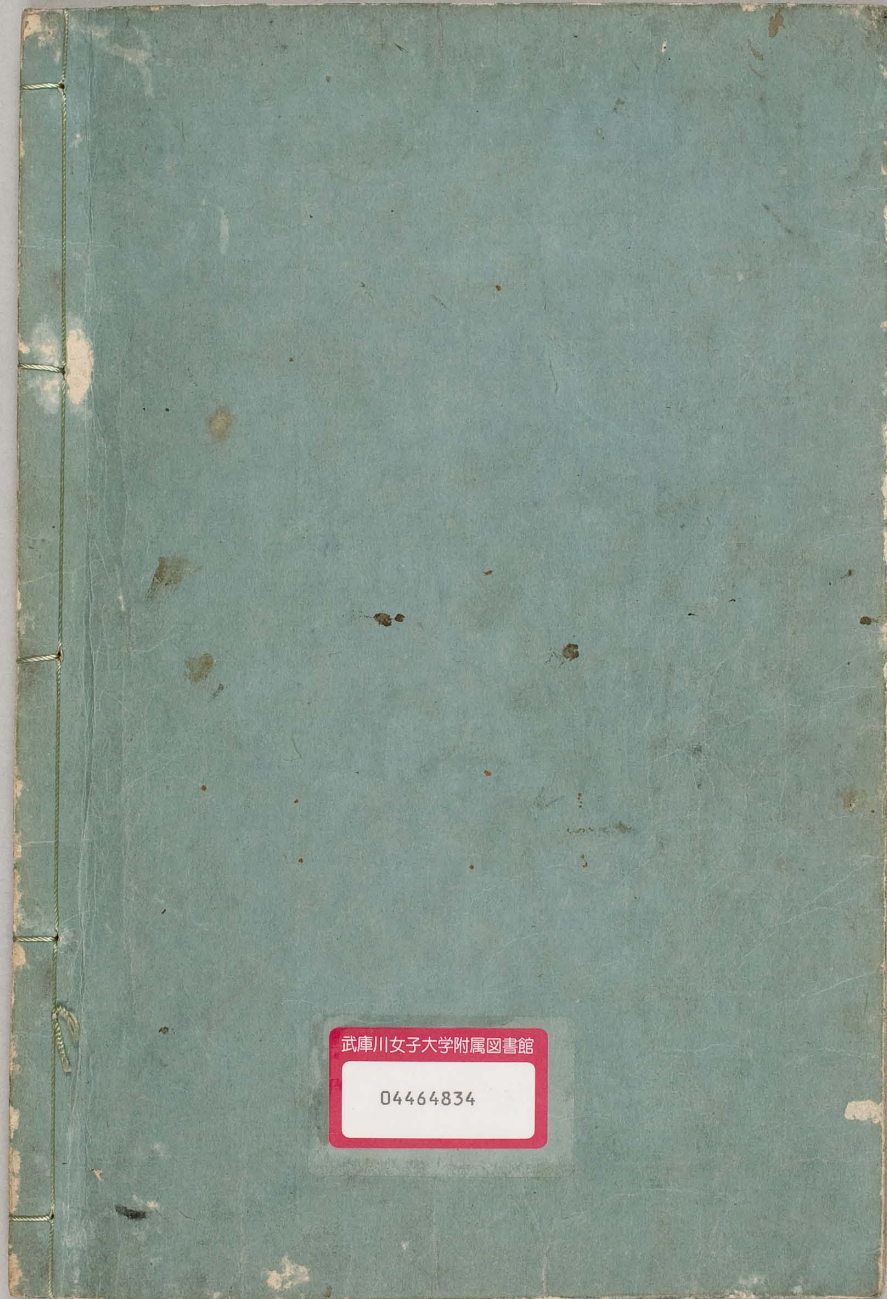
けいせい

賢者の

此柳

具角

鴻原領城町（今、朱雀野にあり）は新上古（今、鴻臚館の地なり）中頃（今、觀音寺院の地なり）の封境（今、西口の畠）は堂の口より又頃（城郭の万里小浜）二條の南方之町なり其先（東山殿）遊宴の地なり天正七年（永正二年）左衛門林又郎（浪人）上訴（領城町）と免許せし其の郭（今、出の）一なり地多（新發）と號し又柳の雙樹（柳町）と稱し其の室町（新町）西洞院也其より十二年と歴て慶長七年（六條）今（今、室町）新町（西洞院）五條橋通の南之方（町）の郭之中（小落）通あり（やうり）三助町（號）六條通あり（西洞院）馬を興（興）なり（志）今（今）又寛永十八年（永正）朱雀野（後）移（移）其の領肥前の後系（草四郎）といふと一掃（記）初（初）及（及）所（所）も（も）い（い）ら（ら）れ（れ）騷（騷）り（り）た（た）世（世）の人（人）後系（後系）と興名（興名）はけ（はけ）り（り）遂（遂）は所（所）の名（名）とせり



武庫川女子大学附属図書館

04464834